

# 大阪市立自然史博物館館報

35

(平成21年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成23年3月31日発行

# 目 次

---

多様化する博物館活動	1
調 査 研 究 事 業	3
資 料 収 集 保 管 事 業	11
展 覧 事 業	22
普 及 教 育 事 業	29
広 報 事 業	40
刊 行 物	43
連 携 ( ネットワーク )	44
庶 務	45

---

# 多様化する博物館活動

館長 山西良平

博物館において、学芸員による日常的な調査・研究活動、資料収集活動の成果は、展示とともにさまざまな普及行事や「友の会」・サークル活動などを通じて市民に還元される。このような流れを基本としつつ、かなり以前に「教育普及活動の系譜」と題して本誌に寄稿した記事の中で、次のような考えを述べた。

「展示は、数10万・数百万の市民を対象とした幅広い教育活動である。このような中で、博物館をより積極的に利用しようとする人々に対して、博物館は、受け手の学習レベルに応じた多様な普及教育活動を行なう。そしてこれに参加する人々の多くは「友の会」に組織され、継続的に博物館を利用するようになる。さらにその中で、特定の学問分野に関心を抱き、研究・創造活動に参加しようとする意欲的な人々に対して、博物館は関連分野の研究サークルをつくり、育てることによって応えていく。これも普及教育活動の重要な部分であると同時に、博物館の調査研究活動との接点である。一中略一このような活動を通じて、市民の中から多数の研究者を輩出することが最終的な到達点であり、これによって、博物館の教育活動は完結することになる。」(大阪市立自然史博物館館報18号、1993年)この頃は本格的な生涯学習時代を迎えようとしていた。ボランティア活動が社会的に注目されるようになり、学校に週5日制が導入され、地域においては生涯学習機会の充実策が検討されはじめた。博物館を含む社会教育機関は人々の自発的な学習意欲に基づいて行われる多面的な学習活動を支える存在であるとして、その役割に大きな期待が寄せられ、それに呼応して博物館関係者の間では市民参加や内外との連携といった観点から、「対話と連携」をスローガンに21世紀の博物館のあり方を模索するとともに、教育活動を重視する傾向が強まった。

以来、当館においてもこのような時代の要請を意識しつつ、ボランティア事業、インターネットを利用した情報提供、総合学習対応を中心とした学校教育支援事業、ワークショップ・たんけんシートなどの展示フロアを活用した来館者向けの新規事業、大阪自然史フェスティバルをはじめとする市民団体との連携事業、博物館相互のネットワーク事業等々の新たな活動分野を開拓しつづけてきた。また、友の会事業の充実に取り組み会員との連携を強化する中で、当館のパートナー団体であるNPO法人大阪自然史センターが誕生した。さらに近年は特別展「大和川の自然」(平成18年開催)において多数の市民が参加して実施した「プロジェクト Y」による資料収集と調査活動の結果が生かされたように、従来学芸員の仕事とされていた博物館の調査研究や資料収集の分野にも市民と連携した活動が威力を発揮するようになってきている。このように博物館の活動領域が大幅にひろがり、複雑化したために、それらを上記のように単線的に体系化することはむずかしくなっている。

しかし、基本の考えが変わったわけではない。大阪という大都市圏に立地する当博物館としては、自然に接する機会に恵まれない多くの人々や「自然離れ」が深刻な子どもたちに、本来の自然の姿とその生い立ちを理解し、自然との関わり方について考えてもらうことが何よりも重要である。このよ

うな使命に基づいて主体的に企画・実施するプログラムがつねに教育活動の根幹を成している。一方で多様化する市民の学習要求に積極的に応えるためのきめ細かな情報サービスや支援活動も充実させてきたが、市民に対する博物館の活動がこちらに解消されてしまってはいけない。前者は教育事業として、後者は学習支援事業として、明確に区別されなければならないであろう。また、友の会と研究サークルの活動はより深化した学習活動と捉えることができる。これらはボランティア活動と共に市民の自発性に基づく学習活動というひとつの領域を形成していると考えられ、博物館側から見れば人材育成事業であるとも言える。このような教育活動、人材育成活動を主導するのはもちろん学芸員でしかあり得ない。学校団体による博物館利用の促進を図り教員を支援するために実施しているさまざまな事業も大きな比重を占めるようになっており、それ自体がひとつの活動領域を形成しているとみるのがよい。ここでは学校教育に通じ、独自のスキルを身に付けた教育スタッフの力が大きな役割を發揮している。また、連携というカテゴリーによって位置づけることのできる事業が近年活発になっている。大学や他の研究機関との連携、自然や教育に関わる市民団体との連携、他の博物館との相互連携などである。この領域では他者との連携のスキルが学芸員をはじめとした博物館職員に求められている。ミュージアムショップも単なる売店ではなく、博物館のメッセージを来館者に伝える重要な場であり普及活動の一環をなすものである。学習資料としての刊行物の整備や博物館への愛着を育むためのグッズ類の開発などの活動がショップと館との協同により営まれている。

本誌の事業報告をご覧いただいでわかるように、今や事業内容はきわめて多岐にわたっている。市民と共に歩む博物館の活動全体を、教育・学習支援・連携といった視点からあらためてレビューし、現在にふさわしい体系化に取り組む必要があると感じている。

# 調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろそろ博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、「淀川水系の水質・生物調査」等の学芸課をあげて取り組み市民と共同の調査活動、「西日本自然史系博物館ネットワークによるGBIF事業」等の博物館連携による調査研究を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、特別展や講演会を通じて市民に普及した。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長	山西良平 (Ryohei YAMANASHI)	
動物研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆虫研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	主任学芸員
	初宿成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	主任学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植物研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	学芸員
	内貴章世 (Akiyo NAIKI)	学芸員
	志賀 隆 (Takashi SHIGA)	学芸員
地史研究室	樽野博幸 (Hiroyuki TARUNO)	学芸課長
	川端清司 (Kiyoshi KAWABATA)	学芸課長代理
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	主任学芸員
第四紀研究室	石井陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成22年3月31日現在

## II. 研究テーマ

### ■山西良平（館長）

- (1)日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2)日本の干潟の多毛類フォーナの調査研究
- (3)大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究

### ■波戸岡清峰（動物研究室）

- (1)ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2)大阪湾周辺海域の魚類相の調査
- (3)淀川水系の魚類相の調査

### ■和田 岳（動物研究室）

- (1)ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2)大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3)大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4)淀川水系の鳥類・両生爬虫類・哺乳類の分布についての研究
- (5)大阪府下の哺乳類の分布についての研究

### ■石田 惣（動物研究室）

- (1)軟体動物（イシガイ類、腹足類）の生態学・行動学的研究
- (2)博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3)生物映像のアーカイビングとその活用
- (4)淀川水系の無脊椎動物相と分布
- (5)大阪湾沿岸の潮間帯生物相

### ■金沢 至（昆虫研究室）

- (1)日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2)近畿地方の蛾類記録の整理
- (3)アサギマダラなどの移動昆虫の調査
- (4)昆虫・クモの光周性の研究

### ■初宿 成彦（昆虫研究室）

- (1)新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2)大阪府および周辺（主に淀川水系）の甲虫類の分布調査
- (3)セミに関する研究
- (4)ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

### ■松本吏樹郎（昆虫研究室）

- (1)ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究
- (2)マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3)近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

### ■佐久間大輔（植物研究室）

- (1)外生菌根性菌類の生態学的研究

## 調査研究事業

- (2)丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
- (3)二次林植物群集の研究
- (4)菌類インベントリーの手法と体制
- (5)博物館情報システムの構築

### ■内貴章世(植物研究室)

- (1)アリドオン属(アカネ科)の分類学的研究および繁殖生態学的研究
- (2)異型花柱性の進化に関する研究
- (3)サツマイナモリの集団遺伝学的研究
- (4)ルリミノキ属(アカネ科)の分類学的研究および高次倍数化に関する研究

### ■志賀 隆(植物研究室)

- (1)コウホネ属(スイレン科)の分類学および生物地理学的研究
- (2)植物の雑種形成および雑種分化に関する研究
- (3)水生植物の保全に関する研究
- (4)水湿地の植物相に関する研究

### ■樽野博幸(地史研究室)

- (1)ステゴドン科(長鼻類)の分類と系統に関する研究
- (2)大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (3)中国産長鼻類に関する研究
- (4)長鼻類の足跡化石に関する研究

### ■川端清司(地史研究室)

- (1)四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2)白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3)現生放散虫に関する研究

### ■塚腰 実(地史研究室)

- (1)新生代古植物相の研究
- (2)ヒシ科化石の分類学的研究
- (3)ショウガ科果実化石の分類学的研究

### ■石井陽子(第四紀研究室)

- (1)大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2)大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

### ■中条武司(第四紀研究室)

- (1)干潟などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2)淀川水系の水質や環境に関する研究
- (3)大阪平野の地下水利用に関する研究

## Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

### 1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

#### ■若手研究(B)

研究課題	研究代表者
アカネ科における倍数体の起源および二型花柱性喪失と自殖の進化に関する研究	内貴章世

(4年間継続の2年目) (課題番号:20770073)

○4月17日の1日間、大阪府和泉市に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○5月12日～14日の3日間、長崎県五島市(福江島)に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○7月5日～6日の2日間、奈良県奈良市、宇陀市、曾爾村、上北山村、御所市に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○7月7日～9日の3日間、鹿児島県名瀬市(奄美大島)および徳之島町、天城町(徳之島)に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○11月14日～15日の2日間、奈良県明日香村、三重県尾鷲市・津市、愛知県常滑市・岡崎市に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○2月1日～4日の4日間、沖縄県名護市、大宜味村、国頭村に出張し、アリドオン属の倍数性検証のための資料収集を行った。

○3月29日～30日の2日間、鹿児島県名瀬市(奄美大島)および徳之島町、天城町(徳之島)に出張し、アリドオン属の花器官に関する資料収集を行った。

#### ■若手研究(B)

研究課題	研究代表者
水生植物コウホネ属における生育形および異形葉形成の進化的背景	志賀 隆

(3年間継続の2年目) (課題番号:20770074)

○7月13日～16日の3日間、栃木県に出張した。

○10月14日～15日の2日間、岡山県、広島県に出張した。

○コウホネ属の野外集団において、環境データと共に、葉長や根茎の伸長など、フェノロジー調査を行った。

○コウホネ属に使用可能なマイクロサテライトマーカーを

京都大学農学部の井鷲研と共同で開発し、シモツケコウホネとナガレコウホネの野外集団の遺伝的多様性および集団構造を調査した。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
カサアブラムシの虫こぶを用いたトウヒ属の古植物学的分類システムの構築 (3年間継続の1年目) (課題番号21570107)	初宿成彦

○北海道・長野・高知・熊本において野外調査を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	研究分担者
市民参加による淀川水系生物環境総合調査とその博物館学的意義 (3年間継続の2年目) (課題番号20605021)	中条武司	石田 惣 志賀 隆 波戸岡清峰

○淀川の自然環境調査を実施する「プロジェクトY」を市民と共に実施した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
哺乳類等骨格標本作成サークルのネットワーク化と普及教育事業への展開方法の共有化 (3年間継続の1年目) (課題番号21601019)	和田 岳

○「ホネホネサミット2009」を開催した。

○ホネの全国ネットワーク「ホネネット」を結成した。

2. 当館学芸員が研究協力者となったもの

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館研究協力者
日華植物区系における固有科アオキ科の種分化と系統分類 (3年間継続の2年目) (課題番号:20770063)	東馬哲雄	内貴章世

○8月4日～8月13日の10日間中華人民共和国に出張した。

○浙江省杭州市、天目山、清涼峰、および湖北省星斗山、来鳳周辺地域において日華区系に固有なアオキ科、アカネ科アリドオン属などの分布調査を行い、資料収集を行った。

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■アメリカ合衆国農務省

研究課題	研究代表者
ツガカサアブラムシの天敵の評価と収集	初宿成彦

○国内各地のツガ林で調査を行った。

V. 海外派遣

■科研費 (若手研究 B) による出張

氏名: 内貴 章世

日程: 8月4日～8月13日 (10日間)

出張先: 中華人民共和国浙江省杭州市、天目山、清涼峰、および湖北省星斗山、来鳳周辺地域

目的: 日華区系に固有なアオキ科、アカネ科アリドオン属などの分布調査。詳しくはⅢ-2「若手研究(B)」を参照。

VI. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行の Nature Study 誌は、ns.と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙の記事の一部とみなしてページを付し、シリーズ名は省略した。当館学芸員以外の著者には氏名に\*を付した。

【館長】

佐久間大輔・和田岳・石田惣・釋知恵子\*・山西良平・溝永正明\* (2009.6) 生態学をテーマとした展示室の新しい形をめざして—大阪府立自然史博物館—, 日本ミュージアム・マネジメント学会会報 14(1): 9-15.

山西良平 (2009.12) 大阪湾の自然再生をめざすネットワーク活動の方向性を考える—シンポジウム趣旨—, 関西自然保護機構誌 31(2): 93-94.

山西良平 (2009.12) 市民ネットワーク活動の拠点施設としてのミュージアム, 関西自然保護機構誌 31(2):115-116.

山西良平 (2009.12) 小難しい学芸員のやさしい小嘶 河口や海岸の生物のタイプ分け, ns. 55(12): 9.

山西良平・中西史尚\*・青木治男\* (2009.12) 淀川汽水域における底生生物の分布と流量との関係について, 河川環境総合研究所報告 (15):75-84.

山西良平 (2010.1) プロジェクトY各調査班による連載企画 淀川水系歩いて採って考えて (その3・フジツボ班の巻) 淀川汽水域の生物分布調査から, ns. 56(1): 7-8.

【動物研究室】

- 波戸岡清峰（分担執筆）（2009.7）ホネで学ぶ、ホネで楽しむ。大阪市立自然史博物館第39回特別展解説書,144pp.
- 波戸岡清峰（2010.2）小難しい学芸員のかっこいい小咄。猪名川のマハゼ。ns. 56:25.
- Inoue, J. G.\*, M. Miya\*, M. J. Miller\*, T. Sado\*, R. Hanel\*, K. Hatooka, J. Aoyama\*, Y. Minegishi\*, M. Nishida\* and K. Tsukamoto\* (2010.1) Deepocean origin of the freshwater eels. *Biology Letters*, published online 6 January 2010, 4pp.
- 和田 岳（分担執筆）（2009.5）生きものなんでも相談。大阪公立大学共同出版会。5月。
- 和田 岳（2009.6）博物館とサークルー博物館コミュニティの幅を広げる。In 『『自然史博物館』を変えて行く』（大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編）高陵社書店。
- 和田 岳・橘麻紀乃\*・西澤真樹子\*・中原まみ\*（2009.6）大阪自然史フェスティバル2004のたくらみー地域やサークルとの連携を強化し、博物館のコミュニティを活性化する。In 『『自然史博物館』を変えて行く』（大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編）高陵社書店。
- 和田 岳（2009.6）ホネホネたんけん隊展への道 その1 なにわホネホネ団と博物館と私。ns. 55:70-72.
- 和田 岳（分担執筆）（2009.7）ホネで学ぶ、ホネで楽しむ。大阪市立自然史博物館第39回特別展解説書, 144pp.
- 和田 岳（2009.7）ホネホネたんけん隊展への道 その2 特別展解説書「ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」の解説。ns. 55:86-88.
- 和田 岳（2009.8）ホネホネたんけん隊展への道 その3 展示解説書にはない展示の解説。ns. 55:98-99.
- 和田 岳（2009.11）書評「天敵なんてこわくないー虫たちの生き残り戦略」。全科協ニュース。36(6):3.
- 和田 岳（2010.1）アオシギ じつは意外とあちこちにいるんじゃないの？。ns. 56:9.
- 和田 岳（2010.3）真の河川の鳥 カワガラスの分布は？。ns. 56:37.
- 佐久間大輔・和田 岳・石田 惣・釋知恵子\*・山西良平\*・満長正明\*（2009.6）生態学をテーマとした展示室の新しい形をめざして 大阪市立自然史博物館。日本ミュージアム・マネージメント学会会報 14(1):9-15.
- 石田 惣（2009.10）大和さんが語る淀川の河口域の100年。ns. 55(10):11.
- 石田 惣・岡出朋子\*（2009.11）プ、プ、プラナリア こっちの水は冷たいぞ？。ns. 55(11):7-8.
- 石田 惣・佐久間大輔・釋知恵子\*・和田 岳（2010.3）博物館と生態学 (12) 生態学とテーマとした新しい展示室 小学生でもわかるベーツ擬態、島の生物地理学、メタ個体群を目指して。日本生態学会誌 60:131-135.
- 石田 惣（分担執筆）（2009.7）第39回特別展「ホネホネたんけん隊」展解説書「ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」。大阪市立自然史博物館第39回特別展解説書, 144pp.

【昆虫研究室】

- 金沢 至（2009.5）中国大陸まで飛んだアサギマダラ。ns. 55(5):6.
- 金沢 至（2009.9）市民と歩む大阪市立自然史博物館。博物館研究 44（10）:7-8.
- 金沢 至（2009.10）他に往復する蛾や蝶はいないのか？ 渡りチョウを調べる会ニュース 3(1):34.
- 金沢 至（2009.10）編集後記。渡りチョウを調べる会ニュース 3(1):14.
- 金沢 至（2010.3）速報5 山本博子さんの急逝を悼む。渡りチョウを調べる会ニュース 3(2):5.
- 金沢 至（2010.3）編集後記。渡りチョウを調べる会ニュース 3(2):14.
- 金沢 至・大島新一郎\*・榎村朗穂\*（2009.4）チョウの異常型。特別展「世界のチョウと甲虫〜岡村宏一コレクションのすべて」によせて。ns. 55(4):24.
- 金沢 至・陳 建志\*・山本博子\*（2010.3）速報4 福島県から台湾獅頭山への移動。渡りチョウを調べる会ニュース 3(2):5.
- 清 邦彦\*・橋本定雄\*・松本 清\*・金沢 至・山本博子\*（2009.10）速報3 八丈島関係の再捕獲。渡りチョウを調べる会ニュース 3(1):5-6.
- 木下總一郎\*・岡田朝雄\*・新部公亮\*・金沢 至（2009.12）ヘッセが採集したパルテベニヒカゲ。「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」によせて。ns. 55(12):2-5.
- Lamb AB.\*（著）・初宿成彦（訳）（2009・5）サムライ甲虫がアメリカの森を救うかもしれない話。ns. 55(5):2-4.
- 吉田浩史\*・初宿成彦（2009.6）コルリアトキリゴミシの淀川河川敷からの記録。ns. 55(6): 9.
- 初宿成彦・宮武頼夫\*（2009.6）和泉山脈・三国山と阿弥陀山周辺のエゾゼミ。ns. 55(6): 10.
- Shiyake S. (2009.6) Past distribution of *Carabus granulatus* Linnaeus at Last Glacial Maximum in Shiga



- Prefecture, western Japan. Entomological Review of Japan (64): 19-24. Japan Coleopterological Society.
- 初宿成彦 (2009.8) 大阪府能勢町でヒメハルゼミの産地が見つかる. ns. 55(8): 7.
- 初宿成彦 (2009.8) セミはどうやって鳴いているの?. 日本表面科学会関西支部主催・第11回市民講座. 大阪府立大学.
- 初宿成彦 (2009.11) 最終氷期の北海道に分布していた周北極性のハンミョウモドキの一種 *Elaphrus lapponicus* について. 日本鞘翅学会第22回大会・日本昆虫学会関東支部第46回大会・合同大会講演要旨集: 13.
- Lamb AB.\*・初宿成彦・Montgomery ME.\* (2009.11). マキムシモドキ科の一種 (*Laricobius sp.*) を用いたツガカサアブラムシの生物的防除. 日本鞘翅学会第22回大会・日本昆虫学会関東支部第46回大会・合同大会講演要旨集: 19.
- 桜谷保之\*・初宿成彦 (監修) (2009.11). テントウムシの調べ方. 日本環境動物昆虫学会編. 148pp.
- 初宿成彦 (2009.12) 最終氷期の北海道に分布していた周北極性のハンミョウモドキの一種 *Elaphrus lapponicus* について. 日本甲虫学会2009年度年次大会講演要旨集: 13.
- 初宿成彦 (2010.1) ヒラズゲンセイ、京都へ. ns. 56(1): 6.
- Ohishi H.\*, Shiyake S., Miyatake Y.\*, Lamb AB.\*, Montgomery ME.\* (2010.1) Initial survey of predacious Diptera on hemlocks in Japan. USDA 21st Forum on Invasive species. January 1215, Annapolis, ML, USA.
- Lamb AB.\*, Shiyake S., Montgomery ME.\*, Havill N.\*, Salom S.\*, Kok L.\* (2010.1) Update on *Laricobius osakensis*. HWA Biological Control Technical Committee Meeting, 12 January, Annapolis, MD, USA.
- 初宿成彦 (2010.1) 金糞岳でシロジュウロクホシテントウを採集. 蝶虫 (154): 2. 滋賀むしの会.
- 初宿成彦 (2010.3) ハリモミ樹上で形成されるカサアブラムシの虫こぶについて. 関西自然保護機構2010年度大会 (ポスター).
- Matsumoto R. (2009) "Veils" against predators: modified web structure of a host spider induced by an ichneumonid parasitoid, *Brachyzapus nikkoensis* (Uchida) (Hymenoptera). Journal of Insect Behavior 22: 39-48.
- Takasuka K.\*, Matsumoto R., Ohbayashi N\*. (2009) Oviposition behaviour of *Zatypota albicoxa* (Hymenoptera, Ichneumonidae), an ectoparasitoid of *Achaearanea tepidariorum* (Araneae, Theridiidae). Entomological Science 12(3): 232-237.
- 松本吏樹郎・西日本ハチ研究会 (2009.4) 矢田丘陵のマイマイツツハナバチとイワタセイボウ. 蜂狩人 (1): 13.
- 松本吏樹郎・吉田浩史\*・矢代学\* (2009.4) 図鑑にあまり載っていないハチの図鑑 1. ヒラアシキバチ属. 蜂狩人 (1): 27.
- 松本吏樹郎 (2009.4) 図鑑にあまり載っていないハチの図鑑 2. クロスジズバチ. 蜂狩人 (1): 28.
- 松本吏樹郎・井上治彦\* (2009.5) *Mesa* 属の1種 (コツバチ科) の本州からの記録. つねきばち 15: 43.
- 北口繁和\*・松本吏樹郎 (2009.4) セアカゴケグモを狩るマエアカクモバチの大阪での記録と営巣習性. ns. 55(4): 67.
- 松本吏樹郎 (2009.7) クモの捕食寄生昆虫概論. 昆虫と自然 44(8): 2-3
- 松本吏樹郎 (2009.7). クモヒメバチの寄生習性・形態・寄主操作. 昆虫と自然 44(8): 4-8
- 石田 惣・松本吏樹郎・佐竹倫太郎\*・佐竹遊沙\*・宮崎捷世\* (2009.8) 昆虫・プロジェクトY合同合宿「奥猪名」報告. ns. 55(8): 10-12.
- 松本吏樹郎, (2009.9) 小難しい学芸員のやさしい小咄 ハチをたくさん採るには ～マレーゼトラップ～. ns. 55(9): 7.
- 松本吏樹郎・Gavin Broad\* (2009.10) 日本と台湾から新たに記録される *Rodrigama* 属 (Ichneumonidae, Poemeniinae) のヒメバチ. 日本昆虫学会第69回大会 (三重) 講演要旨: 77.
- 高須賀圭三\*・松本吏樹郎・酒井雅博\* (2009.10) マダラコブクモヒメバチ *Zatypota albicoxa* 幼虫の寄生様式 (Hymenoptera, Ichneumonidae, *Polysphincta* group). 日本昆虫学会第69回大会 (三重) 講演要旨: 77.
- Yamazaki K\*, Matsumoto R. (2009.12). Predation on the woodwasp *Tremex longicollis* Konow (Hymenoptera: Siricidae) and its parasitoid *Megarhyssa jezoensis* (Matsumura) (Hymenoptera: Ichneumonidae) adults during oviposition. Journal of Asia-Pacific Entomology 12:313-315.
- 松本吏樹郎 (2010.3) クモヒメバチ (ハチ目, ヒメバチ科)

- の寄主操作. 関西自然保護機構 2010年度大会 (ポスター).
- 【植物研究室】**
- 和田 岳・佐久間大輔 (2009) 「かんさい自然フェスタ2008」の講演プログラムについて. 関西自然保護機構会報 31 (1): 3-4.
- 佐久間大輔・和田 岳・石田 惣・釋知恵子\*・満長正明\* (2009) 生態学をテーマとした展示室の新しい形をめざして大阪市立自然史博物館. 日本ミュージアム・マネージメント学会会報 14(1): 9-15.
- 佐久間大輔 (2009) 「キノコのヒミツ」展ライナーノート. ns. 55 (10): 2-4.
- 佐久間大輔・山本博子\* (2009) 植物園案内の記録から見た、長居植物園のキノコ ～都市公園のキノコその2～. ns. 55 (9):23.
- 佐久間大輔 (2009) 小難しい学芸員のやさしい小咄; フリーズドライでキノコ標本. ns. 55 (8):8.
- 梅原 徹\*・佐久間大輔 (2009) 「くろがり」と「くろやま」. ns. 55 (8):5-6.
- 石田 惣・佐久間大輔・釋知恵子\*・和田 岳 (2010) 生態学をテーマとした新しい展示室: 小学生でもわかるベーツ擬態、島の生物地理学、メタ個体群を目指して(<連載2>博物館と生態学(12)). 日本生態学会誌 60(1): 131-135.
- 佐久間大輔 (2010) 学芸員の顔 (=専門性) が見える博物館へ. ミュージアムデータ (76): 10-14.
- 伊東宏樹\*・日野輝明\*・佐久間大輔 (2010) 兵庫県猪名川町の二次林の林分構造および林床植生. 森林総合研究所研究報告 9(1): 47-62.
- 畦 浩二\*・道盛正樹\*・芦田喜治\*・狩野登之助\*・木村全邦\*・細井啓子\*・中山敦仁\*・佐久間大輔 (2010) 大阪府蘇苔類資料2 長居公園 (大阪市) の蘇苔類. 大阪市立自然史博物館研究報告 (64):25-36.
- 佐久間大輔・丸山健一郎\* (2009) キノコのヒミツを知るために. 大阪市立自然史博物館第40回特別展解説書.
- 佐久間大輔・丸山健一郎\*・大久保雅弘\*(2009) 大阪湾南部に残された海浜に分布する大型菌類. 日本菌学会大会講演要旨集 53: 97.
- 志賀 隆 (2009.6) ハスにまつわるエトセトラ. ns. 55(6): 83-84.
- 志賀 隆 (2009.12) 三木茂博士の水草さく葉標本コレクションの概要. 水草研究会誌 (92):22-27.
- 志賀 隆 (2010.2) プロジェクトY 淀川水系歩いて探って考えて (その4・植物班の巻) 淀川の水草の今を調べる. ns. 56(2):10-11.
- 内貴章世 (2009.4) スプリング・エフェメラル. ns. 55(4): 5-6.
- Qiu, Y.-X.\*, X-S Qi\*, X-Y Tao\*, X-F Jin\*, A. Naiki and H. P. Comes\* (2009.11) Population genetic structure, phylogeography, and demographic history of *Platycrater arguta* (Hydrangeaceae) endemic to East China and South Japan, inferred from chloroplast DNA sequence variation. Taxon 58: 1226-1241.
- 【地史研究室】**
- 川端清司 (2009.4~2010.3) 「上町断層」って何だろう? —地震と活断層— うえまち (NPO 法人まち・すまいづくり発行 2009年5月号~2010年4月号連載)
- 川端清司 (2009.7) 皆既日食がみられる南西諸島の地質 ns. 55(7): 11-12.
- 落合総一郎\*・沢田 健\*・中村英人\*・塚腰実・秋元信一\* (2009.9) 化石ゴールのバイオマーカー分析: 植物昆虫共生系の古生物化学的探索. 日本地球化学会年会講演要旨.
- 塚腰 実監修塚腰 実・西田治文\*執筆 (2010.3) 植物化石— 5億年の記憶. INAX出版, 東京. 72pp.
- 【第四紀研究室】**
- 山中康平\*・長谷川徹\*・冬野正史\*・益田晴恵\*・中口 讓\*・滝川真矢\*・宇根山綾香\*・山崎恵美子\*・中条武司・大阪市立自然史博物館淀川水系調査グループ水質班 (2009.9) 淀川水系における化学成分の広域分布と生態系の関係. 2009年度日本地球化学会年会講演要旨: 220.
- Kataoka S. K. \*, Manville, V. \*, Nakajo, T. and Urabe, A. \* (2009.10) Impacts of explosive volcanism on distal alluvial sedimentation: examples from the Pliocene–Holocene volcanoclastic successions of Japan. Sedimentary Geology 220(34):306-317.
- 岡出朋子\*・石田 惣・中条武司・中口 讓\*・淀川水系調査グループ「プロジェクトY」プラナリア班・同水質班 (2009.10) 河川環境と淡水性ウズムシ類の分布の関係—淀川水系における市民参加型調査の結果から—. 2009年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会 (函館) 講演要旨: 133.
- 中条武司 (2009.11) 生き物は地層を作るのか?. ns. 55 (11): 149.
- Yamashita, S.\*, Nakajo, T., Naruse, H.\* (2009.12)

Reconstruction of sediment transport pathways in modern microtidal sand flat by multiple classification analysis. Abstract, 2009 AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting, San Francisco, California, USA : EP43A0654.

中条武司 (2010.3) 表紙—鹿児島県種子島、茎永層群の地層—。ns. 56(3) : 33, 44.

岡出朋子\*・石田 惣・中条武司・中口 譲\*・淀川水系調査グループ「プロジェクトY」プラナリア班、・同水質班 (2010.3) 河川環境と淡水性在来・外来ウズムシ類の分布の関係—淀川水系における市民参加型調査の結果から、日本生態学会第57回全国大会 (東京) 講演要旨 : 494.

中条武司・佐藤隆春\* (2010.3) 非溶結火砕流堆積物の初期再堆積過程 : 奈良県北部、中新統地獄谷累層の例、日本堆積学会2010年茨城大会プログラム・講演要旨 : 59-60.

山下翔大\*・成瀬 元\*・中条武司 (2010.3) 堆積物粒度特性に基づいた現世干潟環境における碎屑物輸送パターンの復元、日本堆積学会2010年茨城大会プログラム・講演要旨 : 106-107.

## VII. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

波戸岡

日本魚類学会評議員

和田

日本鳥学会広報委員

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員

金沢

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員長

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会近畿支部幹事長

渡りチョウを調べる会 HP・編集担当

大阪市立大学非常勤講師「生物学実験B」

初宿

日本甲虫学会運営委員・編集委員

日本昆虫学会評議員

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会運営委員

日本鞘翅学会非常任幹事

佐久間

日本菌学会ニュースレター編集担当幹事

全国科学博物館協議会ニュースレター編集委員

岸和田市環境審議会委員

志賀

水草研究会幹事

川端

日本地質学会評議員・理事

地学団体研究会全国運営委員

塚腰

化石研究会運営委員

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」

中条

日本地質学会代議員

日本堆積学会事務局員

地学団体研究会大阪支部委員

## VIII. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成21年度に受け入れた外部研究者を表1に示す。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

石井久夫・吉川周作・辻元 彰 (2009.9) 長崎湾へのムラサキイガイの侵入時期—飽の浦沖ボーリングコアからの推定、日本貝類学会平成21年度大会 (大阪) 研究発表要旨、Venus 68(12): 87.

石井久夫 (2009.10) 西津軽合宿で採集した淡水貝、ns. 55 (10):9,16.

佐藤隆春・富田克敏・佐藤良二 (2009.3) サヌカイト溶岩の産状—二上層群での例—、地球科学 63(3) : 117-118.

佐藤隆春・富田克敏・佐藤良二・茅原芳正 (2009.3) サヌカイト溶岩と共存する無斑晶質安山岩のマグマ沸騰現象—二上層群、春日山安山岩溶岩の産状—、地球科学 63 (3) : 183-187.

室生団体研究グループ (佐藤隆春・茅原芳正・古山勝彦・山本俊哉・別所孝範) (2009.8) 室生火砕流堆積物基底相から推定される噴火現象と給源火道、地学団体研究会第63回総会 (下仁田) 講演要旨集 : 100.

## 調査研究事業

佐藤隆春・古山勝彦・奥平敬元・富田克敏（2009.8）Mg成分に富む斜方輝石と低い含水条件を獲得したサヌカイトマグマ—二上層群春日山安山岩での例—。地学団体研究会第63回総会（下仁田）講演要旨集：99.

佐藤隆春・室生団体研究グループ（2009.8）アウトフロー堆積物からみた給源火道の形成過程—室生火砕流堆積物と大台コールドロン—。地学団体研究会第63回総会（下仁田）講演要旨集：50-51.

大和大峯研究グループ（八尾昭・南浦育弘・奥田尚・岩橋豊彦・佐藤隆春・佐藤浩一・竹内靖夫）（2009.9）大峰山・大台ヶ原山 自然のおいたちと人々のいとなみ。築地書館，東京，184p.

室生団体研究グループ（佐藤隆春・茅原芳正・山本俊哉・古山勝彦・別所孝範）（2009.9）広域に薄く広がる火砕流堆積物—室生火砕流堆積物基底相の到達範囲—。地質学会第116年学術大会講演要旨：248.

室生団体研究グループ（佐藤隆春・茅原芳正・古山勝彦・山本俊哉・別所孝範）（2009.10）室生火砕流堆積物基底相と給源火道を充填する火砕岩から推定する大規模火砕流の噴出開始期の火山活動。火山学会講演予稿集2009年度秋季大会：161.

中条武司・佐藤隆春（2010.3）非溶結火砕流堆積物の初期再堆積過程：奈良県北部、中新統地獄谷累層の例。日本堆積学会2010年茨城大会プログラム・講演要旨：59-60.

清水裕行・西川喜朗（2009.5）セアカゴケグモ。特集Ⅱ 外来昆虫類の脅威。遺伝 63(3):102-108.

芦田喜治・道盛正樹・佐久間大輔（2009.6）堺市鉢ヶ峯のコケ植物。ns. 55(6):5-6.

畦 浩二・道盛正樹・芦田喜治・狩野登之助・木村全邦・細井啓子・中山敦仁・佐久間大輔（2010.3）大阪府藓苔類資料2 長居公園（大阪市）の藓苔類。大阪市立自然史博物館研究報告（64）:25-36.

表1. 平成21年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
松橋 義隆	研究生	愛知教育大学 河村善也教授	樽野 博幸
石井 久夫	外来研究員	本 人	中条 武司 石田 惣
石田 路子	外来研究員	本 人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本 人	松本吏樹郎
稲本 雄太	外来研究員	近畿大学 櫻谷保之教授	金沢 至
岩永 史子	外来研究員	本 人	佐久間大輔
大石 久志	外来研究員	本 人	松本吏樹郎
岡出 朋子	外来研究員	本 人	石田 惣
岡本 素治	外来研究員	本 人	塚腰 実
奥田 尚	外来研究員	本 人	川端 清司
小郷 一三	外来研究員	本 人	山西 良平
坂井 寛子	外来研究員	大阪市立大学 高木昌興教授	和田 岳
佐藤 隆春	外来研究員	本 人	川端 清司 中条 武司
澤田 義弘	外来研究員	本 人	初宿 成彦
清水 裕行	外来研究員	本 人	金沢 至
鳴橋 直弘	外来研究員	本 人	内貴 章世
花崎 勝司	外来研究員	本 人	波戸岡清峰
林 勇夫	外来研究員	本 人	山西 良平
林 寿一	外来研究員	本 人	金沢 至
本郷美佐緒	外来研究員	本 人	塚腰 実
前田 哲弥	外来研究員	本 人	佐久間大輔
松江実千代	外来研究員	本 人	塚腰 実
松村 勲	外来研究員	本 人	山西 良平
道盛 正樹	外来研究員	本 人	佐久間大輔
渡辺 克典	外来研究員	本 人	初宿 成彦
渡部 哲也	外来研究員	本 人	石田 惣
Ashley Lamb	外来研究員	本 人	初宿 成彦

# 資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

## I. 寄贈および交換標本

### ■ 動物研究室

福岡県のシロハラ他	4点	田中 歩氏	大東市のニホンアカガエル	2点	建家和子・建家遼太氏	
山口県のトラツグミ	1点	橋本 順子氏	大阪府・兵庫県の両生類・爬虫類	5点	富永 修氏	
京都府のアナグマ	1点	米澤 里美氏	高槻市・吹田市のカエル類	4点	榊田 初美氏	
大阪湾産貝類標本	2121点	岡村親一郎氏	能勢町のモリアオガエル	1点	浦野 信孝氏	
日本列島産カワニナ系統図(梶山彦太郎)			兵庫県のイモリ	1点	田口 基子氏	
	1点	目黒寄生虫館	大阪府の両生類・爬虫類	6点	富永 修氏	
堺市のアブラコウモリ	1点	増田 静子氏	高槻市のヌマガエル	1点	榊田 初美氏	
多毛類副模式標本	2点	西 栄二郎氏	熊本県のヌマガエル	1点	米澤 里美氏	
奈良県のカエル類	4点	富永 修氏	豊能町の両生類	2点	松崎 優仁氏	
和泉市のアカガエル	1点	西澤真樹子氏	大阪府の両生類・爬虫類	25点	富永 修氏	
生駒市・奈良市のアカガエル幼生	3点		高槻市のカエル類	2点		
					西澤真樹子・高田みちよ氏	
松崎 猛・松崎優仁・松崎妙子・松崎 瞳氏			茨木市のモリアオガエル幼生	1点		
京都府のアカガエル類幼生	5点	富永 修氏			松崎 猛・松崎妙子・松崎優仁氏	
大阪府・奈良県のアカガエル類幼生	5点		大阪府の両生類・爬虫類	12点	富永 修氏	
		松崎 猛・松崎優仁氏	和泉市・岬町のカエル類	2点	富永 修氏	
豊能町のトノサマガエル	1点	河辺 良氏	奈良県のニホンヒキガエル	1点	岡村 和政氏	
河南町のトノサマガエル	1点	富永 修氏	滋賀県のカエル類	2点	森田 諒氏	
京都市のタゴガエル	1点	速水 厚氏	和歌山県のツチガエル	1点	富永 修氏	
御所市のタゴガエル	1点	藤本龍之介氏	岐阜県のイモリ	1点	富永 修氏	
高槻市のヤマアカガエル幼生	7点	高田みちよ氏	堺市・和泉市・泉佐野市のカエル類	3点	富永 修氏	
豊能町のイモリ	1点	富永 修氏	大阪府のカエル類・ヤマカガシ	4点	富永 修氏	
京都府のニホンアカガエル	3点	西澤真樹子氏	岸和田市のヌマガエル	1点	風間 美穂氏	
茨木市のヤマアカガエル幼生	7点		茨木市のウシガエル幼生	1点	森田 諒氏	
		松崎 猛・松崎優仁・松崎妙子氏	岬町のニホンアカガエル	1点	森田 諒氏	
四條畷市のニホンアカガエル幼生	4点	太田 理氏	高槻市のヤマアカガエル幼生	1点	富永 修氏	
高槻市のヤマアカガエル幼生	1点	高田みちよ氏	大東市・四條畷市のニホンアカガエル	3点	富永 修氏	
大阪府のヤマアカガエル幼生	8点	富永 修氏				
滋賀県の両生類	1点	西澤真樹子氏	東大阪市周辺	のニホンアカガエル幼生	5点	松崎猛・妙子氏
茨木市のヤマアカガエル幼生	5点		河内長野市のニホンアカガエル	1点	田中久美子氏	
		松崎 猛・松崎妙子氏	東大阪市・豊能町の両生類	2点	富永 修氏	
能勢町の両生類	3点	浦野 信孝氏	岬町のニホンアカガエル	2点	西澤真樹子氏	
			茨木市のヤマアカガエル幼生	1点		
					松崎 猛・松崎優仁・松崎妙子氏	
			岬町のニホンアカガエル幼生	1点	森田 諒氏	
			大阪府泉北地域のカエル類	7点	富永 修氏	
			四條畷市のニホンアカガエル幼生	3点	富永 修氏	
			能勢町のイモリ・ヤマカガシ	2点	浦野 信孝氏	
			兵庫県のヌマガエル	1点	富永 修氏	
			四條畷市のウシガエル	1点	富永 修氏	

# 資料収集保管事業

大阪府の両生類	22点	富永 修氏	豊能町の爬虫類	2点	古谷亜矢子氏
京都府・大阪府のカエル類	2点	富永 修氏	箕面市のヤマカガシ	1点	碓 強氏
河内長野市のタゴガエル	1点	森田 諒氏	枚方市のヤマカガシ	1点	村上 豊氏
富山県の両生類	2点		京都府のクサガメ	1点	黒崎 法男氏
		河野勇希・河野美幸氏	種子島のジムグリ	1点	渡部 哲也氏
高槻市のトノサマガエル	1点	富永 修氏	堺市のシマヘビ	1点	仁木 梅子氏
岬町のスナメリ	1点	鍋島 靖信氏	堺市のニホンヤモリ	1点	山本 博子氏
島根県のニホンジカ	2点	西川 喜朗氏	大阪市東住吉区のニホンイシガメ	1点	児玉 舜氏
奈良県のアライグマ	1点	丸山健一郎氏	熊本県のシマヘビ	1点	藤本龍之介氏
奈良県のタヌキ	1点	河原 風花氏	河内長野市のニホンマムシ	1点	竹田 吉郎氏
羽曳野市のケリ	1点	藤浦 義一氏	奈良県のヒバカリ	1点	岡村 修氏
東大阪市のヒミズ	1点	岡出 朋子氏	大阪府・和歌山県の爬虫類	2点	浦野 信孝氏
池田市のヒミズ	1点	松本 清氏	奈良県のシロマダラ	1点	丸山健一郎氏
中国のオキシジミ・コケヌマコダキガイ			箕面市のニホンカナヘビ	1点	清水 悠輝氏
	5点	岡村親一郎氏	石垣島のサキシママダラ	1点	花岡 皆子氏
大阪市東成区のトラツグミ	1点	三浦 隆紀氏	奈良県のシマヘビ	1点	田代 貢氏
兵庫県のアライグマ	1点		奈良県のヤマカガシ	1点	富永 修氏
		大石昂生・大石玲子氏	滋賀県のニホンマムシ	1点	富永 修氏
池田市のネコ	1点	高橋 良寛氏	茨木市のシマヘビ	1点	森田 諒氏
泉佐野市のタカチホヘビ	1点	河上 康子氏	大東市のシマヘビ	1点	建家 遼太氏
山口県のクサガメ	1点	平野 尚浩氏	新潟県のアオダイショウ	1点	
池田市のアカミミガメ	1点	今城香代子氏			西澤真樹子・渡部哲也氏
交野市のジムグリ	1点	浦野 信孝氏	交野市のニホンカナヘビ	1点	松崎 優仁氏
三重県のニホンイシガメ	1点	宮本久美子氏	河内長野市のヤマカガシ	1点	竹田 吉郎氏
岬町のシロマダラ	1点	下野 誠之氏	堺市のシマヘビ	1点	浦野 信孝氏
奈良県のニホンカナヘビ	1点	今西 塩一氏	羽曳野市のニホンカナヘビ	1点	木村 萌人氏
広島県のヤマカガシ	1点	橋本 順子氏	大阪府の爬虫類	8点	
和泉市のシマヘビ	1点	竹田 吉郎氏			富永 修・浦野信孝氏
茨木市のクサガメ	1点	西川 喜朗氏	兵庫県のニホンカナヘビ	1点	富永 修氏
四條畷市のジムグリ	1点	西畑 敬一氏	枚方市のシロマダラ	1点	植田 義輔氏
兵庫県のシマヘビ	1点	河上 康子氏	茨木市のニホンカナヘビ	1点	下湯瀬夏生氏
兵庫県の爬虫類	2点	藤本龍之介氏	兵庫県のニホンヤモリ	1点	岩本 遼太氏
奈良県のジムグリ	1点	富永 修氏	大阪府南河内郡のニホンカナヘビ	1点	
堺市のシマヘビ	1点	浦野 信孝氏			西澤真樹子・米澤里美氏
奈良県のシマヘビ	1点	河野 勇希氏	兵庫県のシマヘビ	1点	米澤 里美氏
和歌山県のシロマダラ	1点	小山 栄氏	埼玉県のアオダイショウ	1点	藤田 宏之氏
広島県の爬虫類	2点	藤本龍之介氏	新潟県のニホンマムシ	1点	藤田 宏之氏
八尾市のニホンヤモリ	1点	森口 貴子氏	富山県のアズマヒキガエル	1点	河野 芳美氏
高知県のニホンヤモリ	1点	富永 修氏	埼玉県のウシガエル	1点	小山ツヤ子氏
京都府のニホンマムシ	1点	黒崎 法男氏	徳島県のカジカガエル	2点	富永 修氏
池田市の爬虫類	2点	藤本龍之介氏	大阪府・兵庫県の両生類	8点	富永 修氏
高槻市のタカチホヘビ	1点	水上 壮平氏	青森県のアカガエル	1点	西澤真樹子氏

## 資料収集保管事業

三重県のイタチ	1点	加納 康嗣氏	千葉県のスズメ他	3点	浅井真紀子氏
河内長野市のニホンリス・ヒミズ・オオルリ			大阪府のキジバト	1点	小林 智氏
	3点	四季彩館	淡路島の貝類	43点	大古場 正氏
有明海の多毛類	6点	佐藤 正典氏	青森県のハタネズミ・ジネズミ	2点	
三重県のカワスナガニ	5点	木村 聡美氏			松浦宜弘・西澤真樹子・米澤里美氏
和歌山県のアゴヒロカワガニ	1点	木村 聡美氏	奈良県のコウベモグラ	1点	
大阪市東住吉区のドブネズミ	1点	松石 圭輔氏			前田 露・西澤真樹子氏
奈良県のタヌキ	1点	前田 露氏	淡路島のヤマトトリバ	1点	花野 晃一氏
福井県鯖江市西山動物園のレッサーパンダ			京都府のニホンジカ	1点	伊東 徳治氏
	1点	西山動物園	広島県のニホンジカ	1点	藤本龍之介氏
豊能町のヌートリア	3点		滋賀県のテン	1点	藤田 美美氏
大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課野生動物グループ			大阪市東住吉区のアカミミガメ	2点	坂井 寛子氏
千早赤阪村のエナガ	1点	横山 大氏	兵庫県の新ホンジカ他	5点	浦野 信孝氏
京都府のニホンアカガエル他	5点	西澤真樹子氏	箕面市のコキクガシラコウモリ	1点	浦野 信孝氏
奈良県のハツカネズミ	2点	前田 露氏	河内長野市のコウベモグラ	1点	田中久美子氏
兵庫県のコウベモグラ	1点		能勢町のヒミズ	1点	富永 修氏
		大石玲子・大石昂生氏	河内長野市のノウサギ	1点	正田美知子氏
奈良県のイタチ	1点	伊藤ふくお氏	兵庫県のニホンジカ	2点	富永 修氏
宮崎県のミサキウマ	1点	八木 直治氏	茨木市のアブラコウモリ	1点	佐竹 敦司氏
堺市のヒヨドリ他	6点	浦野 信孝氏	北海道のエゾトガリネズミ	1点	小山 栄氏
大阪市住之江区のムクドリ	2点	東野 敏行氏	青森県のニホンカモシカ他	2点	
滋賀県のネコ他	2点	武村 量慈氏			西澤真樹子・北村勝秋氏
堺市のキジ	1点	浦野 信孝氏	箕面市のニホンザル	1点	澤田 義弘氏
富田林市のイタチ	1点	竹内 龍男氏	奈良県のタヌキ	1点	中井 悦子氏
天王寺動物園のノマウマ他	50点	天王寺動物園	広島県のニホンジカ	2点	藤本龍之介氏
岡山県のミルクイ	1点	土橋 正氏	京都府のタヌキ	1点	宮崎 俊一氏
奈良県のイタチ	1点	前田 露氏	大阪市淀川区のイス	1点	矢田部典子氏
カメルーンの哺乳類・両生爬虫類	34点	林 耕次氏	天王寺動物園のトカラヤギ他	23点	天王寺動物園
堺市のアライグマ	3点	浦野 信孝氏	大東市のオオタカ他	4点	西畑 敬一氏
大阪市平野区のイタチ	1点	近藤 充弘氏	奈良県のバン他	4点	前田 一郎氏
兵庫県の鯉脚類	22点	田中 聖子氏	堺市のスズメ	1点	下湯瀬生氏
兵庫県のネコ	1点	曾山 あや氏	長野県のハタネズミ他	5点	
松原市のハシブトガラス	1点	六車 恭子氏			松浦宜弘・西澤真樹子氏
兵庫県のアナグマ	1点	大須賀不出子氏	京都府のニホンジカ	1点	上田 俊穂氏
奈良県のタヌキ	1点	西澤真樹子氏	堺市のヒナコウモリ	1点	浦野 信孝氏
奈良県のタヌキ	1点		カナダ産タイリクオオカミ毛皮	1点	芳賀 俊三氏
		河原風花・河原宏吉氏	大阪市中央区のアブラコウモリ	1点	大宮 文彦氏
広島県のイタチ	1点	石本 訓氏	能勢町のイノシシ他	3点	富永 修氏
奈良県のタヌキ・カルガモ	4点	前田 露氏	大阪市東住吉区のニホンヤモリ	1点	西澤真樹子氏
大阪市東淀川区のハンボソガラス他	2点	佐竹 遊沙氏	茨木市のアブラコウモリ	1点	佐竹 遊沙氏
京都府のネコ	1点	中澤 袖香氏	茨木市のニホンヤモリ	1点	西川 喜朗氏
北海道のエゾシカ	1点	黒澤 徹也氏	河内長野市のハツカネズミ	4点	岩崎 佳子氏

# 資料収集保管事業

東京都のクマネズミ	1点	樋口 陽子氏	愛知県のサシバ	1点	渡会 博和氏
千葉県タヌキ・ジネズミ・ノウサギ・アカネズミ他			摂津市のイヌ	1点	
	6点	松浦宜弘・西澤真樹子氏			松崎優仁・松崎 猛氏
奈良県のネコ	1点	河原 風花氏	静岡県のヒミズ	1点	阿部 純氏
和歌山県のノウサギ	1点	樫山 嘉郎氏	飛鳥町立飛鳥小学校の標本	3点	飛鳥小学校
能勢町のハタネズミ	1点	池田 勇介氏	大阪市東成区のキンクロハジロ	1点	
堺市のタヌキ	1点	浦野 信孝氏			松崎 猛・松崎妙子氏
兵庫県のテン	1点	高田 幸作氏	北海道のエゾクロテン他	3点	黒澤 徹也氏
滋賀県のテン	1点	夏原 由博氏	京都府のタヌキ	1点	西澤真樹子氏
茨木市のアライグマ	1点		秋田県のタヌキ	1点	橘麻 紀乃氏
大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課野生動物グループ			兵庫県のアライグマ	1点	山田 英雄氏
奈良県のネコ	1点	河原 風花氏	兵庫県のニホンジカ	1点	山田 英雄氏
高槻市のハツカネズミ・イタチ	2点	矢田部典子氏	北海道のヤチネズミ他	8点	石川 慎也氏
大阪市北区のキビタキ他	3点		四條畷市のシロハラ	1点	西畑 敬一氏
		積水ハウス環境推進部	兵庫県のキクガシラコウモリ	2点	浦野 信孝氏
沖縄県のヤエヤマオオコウモリ	1点	木村 正明氏	三重県のメジロ	1点	増田 喜昭氏
兵庫県の鳥	13点	小島 美夏氏	貝塚市のルリビタキ	1点	山本真梨子氏
愛知県のダイサギ	1点	中村 肇氏	阪南市のハイタカ	1点	奥田 幸男氏
大阪市此花区のハクセキレイ	2点	磯貝 知香氏	天王寺動物園のカバ	1点	天王寺動物園
愛知県のハシブトガラス	1点	中村 肇氏	山口県のテン他	3点	橋本 順子氏
淡路島のオオバン	1点		奈良県のハタネズミ	1点	前田 露氏
		籾田洋嗣・矢野弘美氏	奈良県のアカネズミ	1点	前田 一郎氏
山梨県のヒメネズミ	1点	小山 栄氏	堺市のカワウ他	3点	植本 拓治氏
滋賀県のタヌキ	1点	西澤真樹子氏	天草産潮間帯無脊椎動物	15点	渡部 哲也氏
新潟県のタヌキ・ジネズミ他	13点		大阪市住之江区のコサギ	1点	東野 敏行氏
		松浦宜弘・桜井誠・西澤真樹子氏	松原市のカヤネズミ	1点	西田 良司氏
グリーンイグアナ	1点	木村 萌人氏	枚方市のコウベモグラ	1点	谷岡寿和子氏
マエアカイツガニ模式標本他	14点	和田 恵次氏	兵庫県のキクガシラコウモリ他	2点	浦野 信孝氏
大阪市住之江区のハシブトガラス	1点	東野 敏行氏	兵庫県のアナグマ	1点	難波希美子氏
大阪市東住吉区のドバト	1点	麻野 浩氏	大阪市東住吉区のアブラコウモリ	1点	杉本 伸氏
エチゴウミコチョウの正模式標本	1点	濱谷 巖氏	四條畷市のタヌキ	1点	矢田部典子氏
河内長野市のシカ	1点		京都府のヒミズ	1点	宮崎 明子氏
		下湯瀬可奈子・下湯瀬夏生氏	徳島県のヒメヒミズ	1点	石田 幸子氏
箕面市のヒミズ	1点	富永 修氏	三重県のツグミ	1点	運天 政元氏
堺市のハイタカ	1点	松本 初子氏	奈良県のイタチ	1点	河原 風花氏
西宮市のハツカネズミ	1点	道盛 正樹氏	兵庫県のイタチ	1点	田中 聖子氏
岩手県のタヌキ	1点	宮野 真一氏	京都府のノウサギ	1点	西澤真樹子氏
大阪市東住吉区のキジバト	1点		奈良県のネコ	1点	前田 露氏
		小林 智・小林春平氏	四條畷市のシジュウカラ	1点	稲本 雄太氏
豊中市のシロハラ	1点	飯島 昌氏	交野市のイカル	1点	吉田美千子氏
豊中市のシロハラ	1点	大矢 樹氏	豊中市のスズメ	1点	錦俊 哉氏
兵庫県のノウサギ	1点	大石 玲子氏	和歌山県のネコ	1点	矢田部典子氏



大阪市東住吉区のネコ	1点	橋麻 紀乃氏	高知県立牧野植物園*
和歌山県のハシボソミズナギドリ	2点	久保田 信氏	日本産植物 200点
岬町のトラツグミ	1点	富永 修氏	首都大学東京牧野標本館*
大阪市平野区のスズメ	1点	上田 彩乃氏	日本産植物 250点
奈良県のヒヨドリ	1点	小山 栄氏	大本花明山植物園*
和歌山県のコサギ	1点	矢田部典子氏	日本産変形菌標本 約800点 高橋 和成氏
<b>■昆虫研究室</b>			
三木昆虫コレクション	29,933点	三木 弘也氏	大阪・奈良産菌類標本 約50点 下原 幸士氏
マレーシア産ハネカクシ科完模式標本	1点	林 靖彦氏	<b>■地史研究室</b>
沖繩本島産チュウジョウテントウ	3点	盛口 満氏	日本および世界の化石・岩石 一式 土井 金頼氏
フィリピン産コガネムシ完模式標本	5点	松本 武氏	<b>■第四紀研究室</b>
大阪市産ヒラズゲンセイ	1点	横山 史郎氏	京阪中之島線工事に伴うボーリング資料 1件
沖繩産ベニボタル科バラタイプ	6点	松田 潔氏	(財)地域地盤環境研究所
ヤマトオサムシダマシ	3点	稲本 雄太氏	大阪市内ボーリング資料 17件 都市整備局
日本産ゾウムシ副模式標本	6点	的場 績氏	
日本産コブスジコガネ類	8点	越智 輝雄氏	
ニューギニア産マダラコオロギの1種	5点	Dr. Tony Robillard	
日本産昆虫	8点	市川 顕彦氏	
日本産昆虫	1,386点	桑野 浩一氏	
<b>■植物研究室</b>			
寄贈および交換(*)標本.			
ベンケイヤワラスゲ(アイソタイプ)	1点	清水 孝浩氏	
サトヤマハリスゲ、コウヤハリスゲ(共にアイソタイプ)	2点	京都大学総合学術博物館	
<i>Heloniopsis tubiflora</i> (アイソタイプ、バラタイプ)	2点	布施 静香氏	
大阪市産ウラギク	3点	西尾フミ子氏	
北摂地方産水生植物	10点	石井 久夫氏	
交野市・高槻市産水生植物	4点	福西 勝之氏	
枚方市産植物	2点	道盛 正樹氏	
京都市産オオカワヂシャ	1点	安井 通宏氏	
大阪府・兵庫県産水生植物	18点	富永 修氏	
北摂地方産水生植物	3点	小林 智氏	
京都府大山崎産フトヒルムシロ	2点	杉之原専司氏	
岸和田市産水生植物	4点	河上 康子氏	
北河内産水生植物	211点	木村 雅行氏	
徳島県産植物	100点	高知県立牧野植物園*	
日本産植物	400点	藤井 伸二氏	
日本産植物	300点		
II. 館員による資料収集			
<b>■動物研究室</b>			
担当学芸員は、波戸岡…H, 和田…W, 石田…I と略記する。			
淀川流域(大阪府, 京都府)で淡水魚類を採集			
(5月, 6月, 8月, 9月, 10月, H)			
大阪府南部海岸で海産魚類を採集			
(4月, 5月, 6月, 3月, H)			
徳島県(吉野川, 勝浦川などの河口)で汽水域魚類を採集			
(7月, 9月, H)			
兵庫県洲本市由良町の海岸で海産魚類を採集 (4月, H)			
淀川流域(大阪府・兵庫県)でカエルなど両生類を採集			
(4月, 6月, 7月, 9月, 2月, 3月, W)			
福井県美浜町で漂着オサガメを採集 (11月, W)			
兵庫県洲本市由良町で海産無脊椎動物を採集			
(4月, 7月, I)			
淀川汽水域(大阪府・兵庫県)で海産無脊椎動物を採集			
(5~6月, 10月, 1月, I)			
大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集			
(5~6月, 3月, I)			
千葉県鴨川市で海産無脊椎動物を採集 (5月, I)			
徳島県吉野川河口で海産無脊椎動物を採集 (9月, I)			
国立公文書館・内閣文庫で博物図を閲覧・複写 (2月, I)			
<b>■昆虫研究室</b>			
日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほ			

## 資料収集保管事業

か、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月4～7日	長野県松本市・栃木県日光市		7月9日	能勢町・猪名川町	セミ・河川の甲虫(S)
		カサアブラムシ(S)	7月11～12日	鳥取県大山町大山	昆虫一般(M)
4月11～12日	兵庫県猪名川町	昆虫一般(M)	7月14・15日	東近江市	河川の甲虫など(S)
4月19日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類(M)	7月16日	奈良県東吉野村	昆虫一般(M)
4月19日	大阪府高槻市	河川の甲虫(S)	7月22日	京都市左京区	針葉樹の昆虫(S)
4月21～24日	中国上海・浙江省平湖・天目山		7月22日	京都府八幡市三川合流	昆虫一般(S,M)
		アサギマダラ(K)	7月23日	奈良県東吉野村	昆虫一般(M)
4月22日	滋賀県高島市	甲虫類(S)	7月30日	奈良県橿原市	昆虫一般(M)
4月26日	高槻市三島江	レンゲ畑の昆虫(M)	7月31日～8月5日		
4月29日	奈良県生駒市俵口町	昆虫類(M)		青森県つがる市・むつ市	昆虫化石など(S)
5月2日	奈良県大和郡山市		8月16日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	
		マイマイツツハナバチ(M)			アサギマダラ(K)
5月7～9日	和歌山県有田川市・高野町		8月16日	大阪市うつぼ公園	昆虫一般(M)
		カサアブラムシ・カイガラムシ(S)	8月17日	奈良県大和郡山市	昆虫一般(M)
5月10日	兵庫県たつの市揖保川河川敷		8月18・19日	滋賀県長浜市	河川の甲虫(S)
		昆虫一般(M)	8月20日	旭区城北	河川の甲虫(S)
5月11日	滋賀県水口町	昆虫一般(M)	8月21・22日	平野区大和川河原	河川の昆虫(K)
5月13～15日	福島県吾妻山ほか		8月25日	伊丹市軍行橋(猪名川)	河川の甲虫(S)
		カサアブラムシ・カイガラムシ(S)	9月2日	兵庫県宍粟市赤西溪谷	昆虫一般(M)
5月14日	三重県伊賀市	キバネツノトンボ(M)	9月3～5日	長野県木曾駒が岳	カサアブラムシ(S)
5月15日	奈良県奈良市平城宮跡	昆虫一般(M)	9月6日	西区鞠公園	セミのぬけがら(S,M)
5月16～18日	青森県つがる市	昆虫化石・水生甲虫(S)	9月9・13日	茨木市泉原	昆虫一般(S)
5月18日	河内長野市岩湧山	昆虫一般(M)	9月10日	堺市中鉢ヶ峰・百舌鳥	里山の昆虫(K)
5月19日	兵庫県猪名川町	昆虫一般(M)	9月14日	天王寺・大阪城	セミぬけがら(S)
5月23～24日	能勢町	河川の甲虫(S)	9月15日	藤井寺市船橋町(石川河川敷)	バッタ(K)
5月28日・6月2日			9月24・27日	枚方～城北	昆虫一般(S)
	東大阪市枚岡公園	昆虫全般(S)	9月24日	東大阪市生駒山	昆虫一般(M)
5月30～31日	兵庫県猪名川町	昆虫一般(M)	9月27日	藤井寺市船橋町(石川河川敷)	
6月5・14日	伊丹市猪名川	河川の甲虫(S)			バッタ(K,M)
6月7日	京都市・大津市 八丁平	甲虫類(S)	9月30日～10月1日	長野県大鹿村	カサアブラムシ(S)
6月8日	池田市五月山	昆虫一般(M)	10月4日	奈良県桜井市	昆虫一般(M)
6月11日	三重県鳥羽市	甲虫類(S)	10月5日	奈良県生駒市	昆虫一般(M)
6月12・13日	東大阪市枚岡公園	チョウ・ガ(K)	10月18～22日	北海道札幌市・苫小牧市ほか	
6月15日	兵庫県宍粟市赤西溪谷	昆虫一般(M)			カサアブラムシ(S)
6月16日	和歌山市・白浜町	甲虫類(S)	10月20・31日	島本町桜井～水無瀬川	アカトンボ(K)
6月18日	高槻市鶴殿, 大阪市城北ワンド		10月21日	和歌山県美浜町日の岬	アサギマダラ(K)
		河川敷の昆虫(M)	10月22日	奈良県大和郡山市	昆虫一般(M)
6月24日	兵庫県神戸市	昆虫一般(M)	10月28日～11月1日		
6月26日	奈良県大和郡山市	昆虫一般(M)		乗鞍・志賀高原・日光	カサアブラムシ(S)
6月29日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般(S)	10月30日	奈良県奈良市平城宮跡	昆虫一般(M)
7月7・12日	高槻市	セミタケ(S)	11月3日	奈良県奈良市奈良公園	昆虫一般(M)
			11月8日	堺市中鉢ヶ峰・百舌鳥	里山の昆虫(K)

## 資料収集保管事業

11月15・16日	静岡県静岡市南アルプス南麓	カサアブラムシ(S)	6月3日	京都府京都市左京区	植物一般(ST・N)
11月20日	藤井寺市石川河川敷	スギヒメハマキ(M)	6月5日	兵庫県伊丹市	水生・湿生植物(ST)
11月30日	奈良県大和郡山市	昆虫一般(M)	6月13日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)
12月9日	高槻市	カサアブラムシ(S)	6月27・29日	東大阪市枚岡	菌類など(SD)
12月23日	木津川市木津川河川敷	越冬昆虫(M)	7月5～6日	奈良県奈良市、宇陀市、曾爾村、上北山村、御所市	アリドオン属、植物一般(N)
12月31日	愛媛県砥部町重信川河川敷	越冬昆虫(M)	7月6日	和泉市信太山	菌類など(SD)
1月5日	高槻市鶴殿	越冬昆虫(M)	7月7～9日	鹿児島県名瀬市(奄美大島)、徳之島町、天城町(徳之島)	アリドオン属など(N)
1月13～15日	種子島	昆虫一般(S)	7月13～16日	栃木県日光市、那須烏山市、真岡市	コウホネ属(ST)
1月15日	奈良県奈良市平城宮跡	越冬昆虫(M)	7月16・25日	京都伏見稲荷山	菌類など(SD)
1月19日	京都府八幡市三川合流	越冬昆虫(M)	7月26日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)
2月8日	池田市五月山	越冬昆虫(M)	7月30日～8月5日	青森県つがる市、十和田市、秋田県鹿角市	水生植物(ST)
2月12・13日	高知県土佐佐笠山	カサアブラムシ(S)	8月28日	大阪府豊能町、寝屋川市	水生・湿生植物(ST)
2月14日	兵庫県宝塚市武田尾	越冬昆虫(M)	9月8日	大阪府高槻市	水生・湿生植物(ST)
2月19日	奈良県生駒市	越冬昆虫(M)	9月9日	大阪府茨木市	水生・湿生植物(ST)
2月25～27日	宮崎県五ヶ瀬町	カサアブラムシ(S)	9月24日	大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)
3月27日	枚方市樟葉	河川の甲虫(S)	10月4日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)
3月28日	高槻市鶴殿	越冬昆虫(M)	10月9日	大阪府島本町	植物一般(ST)
3月30日	守口市庭窪	河川の甲虫(S)	10月11日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)
<b>■植物研究室</b>			10月14・15日	広島県世羅町、岡山県佐伯町、兵庫県三田市	コウホネ属(ST)
調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…SD、内貴…N、志賀…STと略記する。			10月22日	京都市將軍塚	菌類など(SD)
4月11日	兵庫県猪名川町	植物一般(ST)	10月26日	滋賀県高島市朽木	菌類など(SD)
4月17日	飯田市伊那谷	菌類など(SD)	10月28日	大阪府大阪市	水生・湿生植物(ST)
4月17日	大阪府和泉市	アリドオン属など(N)	10月29日	大阪府枚方市、高槻市、寝屋川市、守口市	水生・湿生植物(ST)
4月24日	吹田市万博公園	菌類など(SD)	11月9～11日	栃木県日光市、那須烏山市、真岡市	コウホネ属(ST)
4月24日	大阪府高槻市	植物一般(ST・N)			
5月3日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)			
5月12日	大阪府島本町	植物一般(ST)			
5月12～14日	長崎県五島市(福江島)	アリドオン属、植物一般(N)			
5月16～18日	青森県青森市、つがる市	植物一般(ST)			
5月19日	兵庫県猪名川町	植物一般(ST)			
5月19・20日	奈良県川上村大ヶ原	菌類など(SD)			
5月23日	大阪府島本町	植物一般(ST)			
5月24日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物(ST)			
5月27日	大阪府豊能町、寝屋川市	水生・湿生植物(ST)			

## 資料収集保管事業

11月14・15日	奈良県明日香村、三重県尾鷲市・津市、愛知県常滑市・岡崎市	アリドオシ属 (N)
11月20日	河内長野市天野山	菌類など (SD)
12月20日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物 (ST)
2月11日	京都府京都市、大阪府枚方市、寝屋川市、守口市、大阪市旭区	水生・湿生植物 (ST)

### ■地史研究室

担当者名 樽野…T、川端…K、塚腰…Gと略記する。

5月14日	奈良県桜井市	黄鉄鉱 (T)
5月25日	大阪府箕面市	タカチホヘビ (T)
8月21日	群馬県下仁田町	下仁田構造帯岩石 (K)
9月20日	奈良県桜井市	黄鉄鉱 (T)
11月9日	滋賀県湖南市	古琵琶湖層群植物化石 (G)
12月25日	泉佐野市	大阪層群植物化石 (G)
3月10日	岸和田市	大阪層群植物化石 (G、Y)
3月22～24日	熊本県八代市・天草市	中生代放散虫化石・岩石 (K)

### ■第四紀研究室

担当学芸員名は石井…I、中条武司…Nと略記する。

4月22日	富田林市・河内長野市	大阪層群火山灰試料 (I)
5月14日	和泉市・熊取町	大阪層群火山灰試料 (I)
5月26日	三重県松阪市	干潟地層 (N)
7月19日	堺市・和泉市・岸和田市・熊取町	大阪層群火山灰試料 (I)
11月3日	奈良市	新生代中新世火山灰試料 (I)
12月1～3日	鹿児島県種子島	海浜砂・軽石 (N)
12月20日	和泉市・岸和田市	大阪層群火山灰試料 (I)

## Ⅲ. 業務委託による収集

業務名：淀川産プランクトン（二枚貝グロキディウム幼生）調査業務

業務概要：淀川のワンドに生息する二枚貝（インガイ）について、グロキディウム幼生が着底し、成長できる底質環境を調査する。

調査水域：淀川のワンド内（主に赤川ワンド）

調査時期：2009年7月～10月

## Ⅳ. 資料数

### ■動物研究室（平成21年度末）

海綿動物	123点
刺胞動物・有櫛動物	672点
扁形・紐形動物	300点
触手動物	135点
環形動物	5,432点
甲殻類	12,648点
軟体動物	31,209点
棘皮動物	2,567点
原索動物	446点
その他無脊椎動物	1,023点
魚類	35,379点
両生類	21,995点
爬虫類	7,887点
鳥類	6,428点
哺乳類	2,215点
(計)	128,461点

### ■昆虫研究室（平成21年度末、未登録標本を含む）

標本総数	883,383点
日本産	
カワゲラ目	442
カゲロウ目	10,155
トンボ目	17,756
カマキリ目	385
直翅目	11,746
ナナフシ目	453
ハサミムシ目	511
ガロアムシ目	98
ゴキブリ目	480
シロアリ目	92
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類（カメムシなど）	13,851
異翅類（セミなど）	28,284
脈翅目	1,497
シリアゲムシ目	1,652
トビケラ目	2,164
蛾（ガ）	54,553

## 資料収集保管事業

蝶（チョウ）	66,984	鉱物	2,513点
甲虫目	288,016	脊椎動物化石	1,515点
ハエ目	43,597	古生代無脊椎動物化石	1,370点
ハチ目	43,274	中生代無脊椎動物化石	3,090点
その他の昆虫（各目）	16,975	有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
クモなど	16,402	放散虫化石	135点
（計）	619,751	古生代植物化石	185点
		中生代植物化石	367点
		第三紀植物化石	3,741点
		（計）	32,032点

外国産	
蝶（チョウ）	82,512
蛾（ガ）	7,727
ハチ目	4,941
ハエ目	3,123
甲虫	123,180
脈翅目	51
異翅類（カメムシなど）	2,034
同翅類（セミなど）	6,005
直翅型昆虫	3,214
トンボ目	1,298
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,117
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
クモなど	1,576
（計）	263,632

### ■植物研究室（平成21年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	258,588
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	8,020
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
（計）	347,945

### ■地史研究室（平成21年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
----	--------

### ■第四紀研究室（平成21年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,611(件)
（計）	36,595点(件・種)

## V. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センタに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成21年度(2009年度)も、新しく受け入れたものについて引き続き

## 資料収集保管事業

おこなっている。

平成21年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は360部で、平成21年度末現在の入力済み収蔵数は12,869部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成21年度に2,616冊、平成21年度末現在の累計167,174冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈(登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略)

●個人：横関秀行、加納隆、花井孝、桂孝次郎、佐名川洋之、柴山元彦、春沢圭太郎、小山敏子、小林京子、松葉千年、上野雄規、前川英喜、早川貞臣、相坂耕作、村上興正、村瀬ますみ、川那部浩哉、長谷川順一、辻本善次、藤咲明子、藤田厚子・藤田真、平軍二、堀繁久、堀由紀子、齋藤宏

●民間団体、出版社、企業など：NHK名古屋放送局 放送センター、WWF ジャパン(世界自然保護基金ジャパン)、伊賀盆地化石研究会、オフィス303、こどもくらぶ編集部、衣笠会、河出書房新社、青丹社、白水隆文庫刊行会、北隆館

●政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など：Real Sociedad Espanola de Historia Natural、リバーフロント整備センター、加西市教育委員会 市史・文化財室分室、科学技術振興機構、環境省近畿地方環境事務所国立公園・保全整備課、岸和田市、亀山市歴史博物館、近畿地方環境事務所 野生生物課、近畿地方環境事務所国立公園・保全整備課、群馬県立自然史博物館、交通博物館、交通文化振興財団、広島県立図書館、広島大学理学部附属宮島自然植物実験所、高校生物研究会、国際文化交友会 月光天文台、国立科学博物館、国立民族学博物館、阪神貝類談話会、札幌市博物館活動センター、三重県、産業技術総合研究所地質標本館、市川市、滋賀県米原市教育委員会、鹿児島市水族館公社、西宮市郷土資料館、千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センタ、千葉県知事、全国視聴覚教育連盟、双翅目談話会、倉敷市立自然史博物館、大阪昆虫同好会、大阪市教育委員会事務局 市民学習振興担当、大阪大学総合学術博物館、大阪府教育委員会事務局文化財保護課、大本花明山植物園、大野川緑陰道路の教材づくり研究会、第4回国際ゴールシンポジウム実行委員会、奈良県くらし創造部景観・環境局自然環境課、那須御用邸生物相調査会、南方熊楠顕彰館、日本クモ学会、日本甲虫学会、日本大学法学部、日本直翅類学会、農業生物資源研究所、

農林放送事業団、富山県、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課、兵庫県立鳴尾高等学校地学科、豊田市環境部環境政策課、北京自然博物館、鈴鹿市環境部環境政策課環境保全グループ

### 2. 購入等によるもの

#### ●図書購入費による購入(登録済みの分のみ)

平成21年度 88冊

#### ●消耗品費による購入

国内7誌

[平成21年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

#### ●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌, Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(Ecological Research, 日本生態学会誌)

日本生物地理学会(Biogeography, 日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(Ichthyological Research, 魚類学雑誌)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(The Japanese Journal of Phycology, 藻類)

日本陸水学会(Limnology, 陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

国際トンボ学会(ODONATOLOGICA)

日本地球惑星科学連合(Japan Geoscience Letters)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友会の発行(当館編集)Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機

関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成21年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、2,616冊である。

#### ■ 研究報告など出版物の配布

2009年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告 63号	470ヶ所	479冊	428ヶ所	431冊
自然史研究 3巻10号	354ヶ所	362冊	182ヶ所	185冊
収蔵資料目録 第41集	239ヶ所	247冊	55ヶ所	56冊
展示解説 第39, 40回特別展解説書、ミニガイド23	269ヶ所	278冊		
館報 33号	648ヶ所	657冊	11ヶ所	11部

通送便による部数は数えていない。

# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

## I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第5展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらししているのかを展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コー

ナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成21年度には、下記の常設展示の更改・補修等を行った。

### ■ プテラノドン全身骨格の展示を追加（第2展示室）

平成19年度に開催した特別展「世界最大の翼竜展－恐竜時代の空の支配者－」の際に組み立て展示したプテラノドンの全身骨格レプリカを、第2展示室の常設展示として追加した。天井からステンレスワイヤで吊り下げる方法をとった。翼開長5 m。

## II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を、積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

### ■ 第38回特別展「世界のチョウと甲虫」～岡村宏一コレクションのすべて～

世界のチョウや甲虫の収集家である岡村宏一氏（大阪工業大学名誉教授）のコレクションのほぼ全てを展示した。岡村氏のコレクションは、大型で美しい種類や珍しい種類の標本ばかりでなく、すべての種・亜種を網羅していることで、昆虫学の研究資料として極めて貴重なものである。3万点に及ぶ標本により、昆虫の多様性の不思議さと豊かな地球の自然について市民に考えていただく機会を提供した。

●会 期：平成21年4月18日（土）～5月31日（日）

●会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：大阪府、大阪府教育委員会、

●入場料：大人400円、高校生・大学生 300円（30人以上団体割引あり）。本館（常設展）入館料（同300円、200円）とのセット料金は、同600円、400円。中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方は無料。





図1. 特別展「世界のチョウと甲虫」

●展示点数：約30,000点。

●展示構成

- 第1部 世界のチョウ類
- 第2部 世界の甲虫類
- 第3部 昼行性のガ類
- 第4部 ビワハゴロモ類
- 第5部 熱帯林の保全

関連行事：

「日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム」

渡りをするチョウ・アサギマダラについて、アルカロイド類の利用と2008年の調査結果を、わかりやすく解説していただいた。

日時：5月10日（日）午後3時～午後5時

内容：

1. 「アサギマダラの化学生態あれこれ」  
…本田計一（広島大学教授）
2. 「2008年のアサギマダラの調査成果報告」  
…金沢至（当館学芸員）
3. 総合討論

会場：大阪市立自然史博物館 講堂

参加者：88名

■第39回特別展「ホネホネたんけん隊 ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」

ミンククジラ、ジュゴン、ダチョウ、アホウドリ、アカウミガメなど、大阪市立自然史博物館で所蔵する標本を中心に、多数のホネの標本を展示すると共に、ホネを使って学んだり、ホネを楽しんだり、ホネを見る視点を提案した。同時にホネとかかわるさまざまな団体や専門家の紹介を行った。ホネには一般に不吉なイメージがあるが、その形に魅了される人も多く、生物の構造に興味を持った美術関係者をはじめ、これまで自然史博物館との接点が希薄であった多くの人々にも、興味を持っていただけたと考えている。

●会期：平成21年7月4日～8月30日（50日間）

●会場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

●主催：大阪市立自然史博物館、なにわホネホネ団、特定非営利活動法人 大阪自然史センター

●観覧料：大人500円、高校・大学生300円。

●展示内容

1. ホネの基礎知識
2. ホネのいろいろ  
哺乳類のホネ  
鳥類のホネ  
爬虫類のホネ  
魚類のホネ  
無脊椎動物のホネ
3. ホネから見る進化・体の仕組み
4. ホネを並べて比べる  
鳥類の各グループのホネを並べて比べる  
大阪の哺乳類のホネを並べて比べる
5. ホネの標本づくり
6. ホネの楽しみ方・使い方
7. ホネホネな人々
8. ホネの図書館
9. シカのホネ並べ

●関連行事

ホネホネ“アート”ワークショップ

ホネの形は、それ自体とても美しい。同時に、その形には動物が生きる上で欠くことのできない機能が秘められている。アートの立場からホネにふれるプロセスにおいて、ホネが秘めている動物の進化や暮らしについての謎を、いろいろ考えていくことができるだろう。

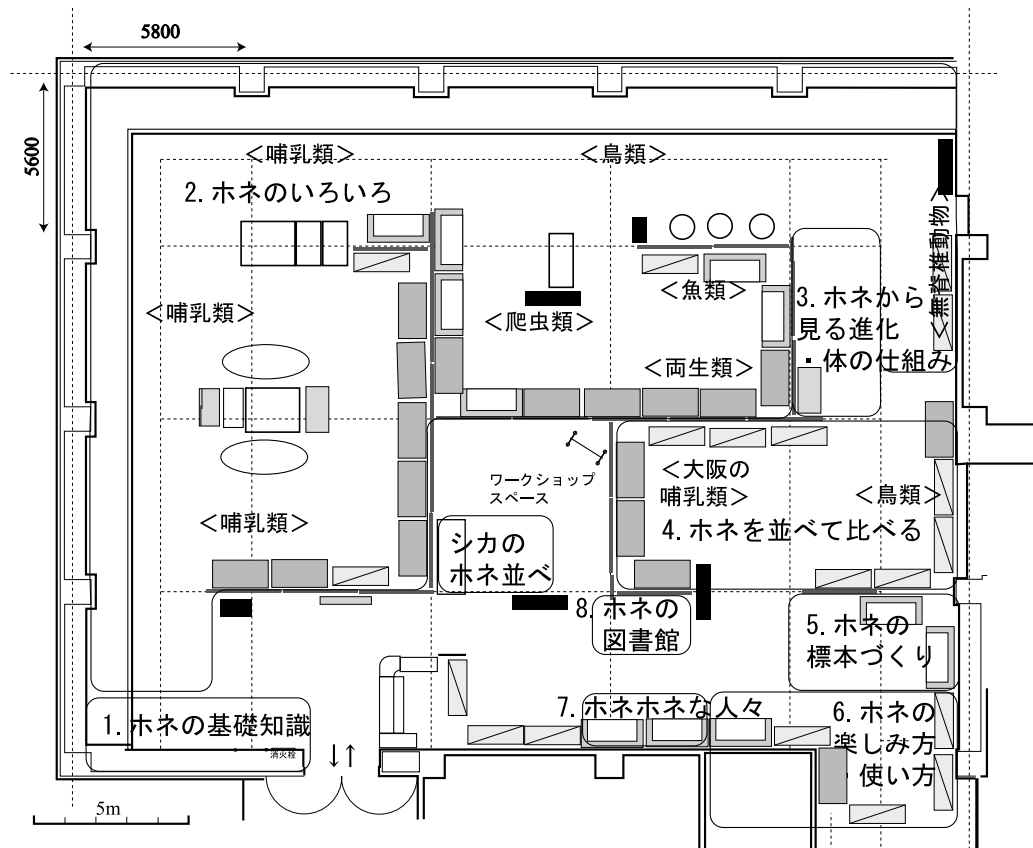


図2. 特別展「ホネホネたんけん隊」配置図

日時：6月28日（日）午後1時～5時、7月2日（木）午後6時～8時、7月5日（日）午後2時～3時

場所：大阪市立自然史博物館 実習室、ネイチャーホール

講師：池田朗子（美術家）、西澤真樹子（なにわホネホネ団団長）、和田岳（大阪市立自然史博物館）

実施：NPO法人 大阪アーツアポリア

教員・観察者指導者向け支援プログラム「ホネ取り、ホネ並べ」

ホネを見れば動物の進化や暮らしの色々な事がわかる。ホネの標本作りを解説し、体験すると共に、ホネを並べて動物の体の仕組みを考えた。

日時：6月27日（土）午前10時～午後3時頃

場所：自然史博物館 実習室

対象：小中学校、高校、養護学校の教員、または学校教員を目指している大学生など。

大人向けワークショップ「標本を作ってホネを知る」

標本作りは、じっくりとホネを見るいい機会になる。実際にホネの標本を作りながら、ホネの基本を学んだ。

日時：7月12日（日）午前10時～午後3時頃

場所：自然史博物館 実習室

対象：小学校高学年以上

自然史オープンセミナー「ホネで楽しむ、ホネで学ぶ」

ホネには動物の秘密がたくさんつまっている。ホネについての基礎知識を紹介すると共に、ホネの見方、楽しみ方を考える機会とした。

日時：7月18日（土）午後3時～午後4時30分

場所：自然史博物館 集会室

講師：和田岳（動物研究室）

普及講演会「一学者、死体と闘う」

死体と闘うことが、私の仕事だ、死体は人類がまだ手にしていない真実を隠しもつ。死体を見て、死体に触れて、死体を切って、死体に真実を語らせて、最後にそれを未来

へ引き継ごう。それが私にできる唯一の闘いだ。

講師：遠藤秀紀氏（東京大学総合研究博物館）

日時：7月26日（日） 午後2時～午後4時

会場：大阪市立自然史博物館 講堂

**室内実習「ホネの標本製作講座」**

ホネの標本の作り方を解説した上で、実際に小動物の全身骨格標本を作った。

日時：8月9日（日）午前10時～午後3時頃

場所：自然史博物館 実習室

対象：小学校高学年以上

**自然史オープンセミナー「ホネの形」**

日時：8月15日（土）午後3時～午後4時30分

場所：自然史博物館 集会室

講師：樽野博幸（地史研究室）

**「ホネホネサミット2009」**

博物館や大学などを舞台に、公の財産としてのホネの標本づくりをしている団体や個人、その他にも、さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている人たちが、そしてホネに興味のある人たちが交流するイベントとして企画。ホネの魅力や動物の死体を標本として残すことの意義を知ってもらう機会と位置づけた。

日時：8月22日（土）～23日（日）

会場：大阪市立自然史博物館

主催：なにわホネホネ団、大阪市立自然史博物館、NPO 大阪自然史センター

協賛：株式会社エヌ・ティー・エス、株式会社アリス館

出展者：なにわホネホネ団をはじめ日本各地のホネ関連の約35団体・個人

**主な内容**

ポスター展示：活動紹介や標本づくりの工夫や自慢ブース

出展：標本の展示や参加型の企画など

ホネホネ発表会：口頭又は実演付きで、骨格標本作成の技や道具などの工夫や面白い着眼点、ホネを使った教育プログラムや活動展開を紹介ドイツの標本作成技師による講演・実演

講師：相川稔氏（ヘッセン州立ヴィースバーデン博物館）、Jan Panniger（ヤン・パニガー）氏（シュトゥットガルト自然史博物館）

**■第40回特別展「きのこのヒミツ：きのこで世界はまわってる」**

キノコに代表される菌類は自然生態系の中で、あらゆる

生物の死骸や排泄物の分解に関与し、次の生命へとつながる大切な役割を担っている。陸上の自然は菌類 抜きには語れない。自然の中でのリサイクルの大切さは皆が知っていることであるが、これを具体的なキノコの生きざままで印象づけ、土に親しみ、自然の仕組みを知り、キノコを安全に楽しんでもらえる展示を企画した。

●会 期：平成21年9月19日～11月3日

●会 場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール  
（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館

●協 力：日本菌学会・日本土壌動物学会・  
関西菌類談話会・幼菌の会

●観覧料：大人500円、高校・大学300円。

**●展示内容**

1. キノコって何者？
2. キノコはどうやって生きている
3. たくさんの種類にはたくさんの生活
4. キノコの正体を見極める執念
5. 知ればめぐみ、知らなければ危険
6. キノコを食べるのはヒトだけではない、土をつくるのはキノコだけではない ～土壌生態系～
7. キノコを楽しもう、謎解きを楽しもう

**●関連行事：**

**音楽と自然の広場**

大阪市音楽団によるオープンエアコンサートと、学芸員のミニトークのコラボレーション。今年のテーマは「キノコ」です。音楽でイマジネーションを広げて自然を感じようというイベント。



図3. 特別展「きのこのヒミツ展」のようす

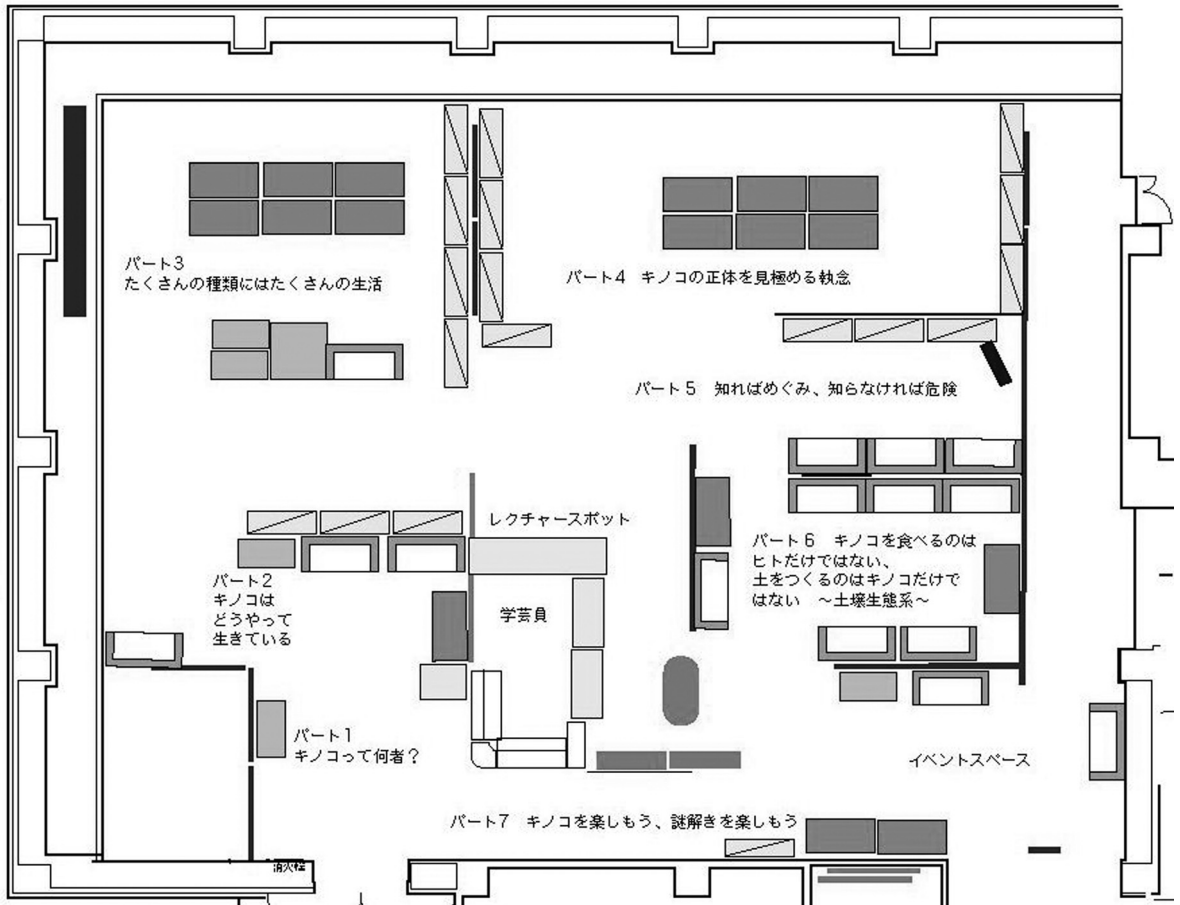


図4. 特別展「きのこのヒミツ」配置図

日時：9月19日（土） 13：30～14：45

会場：自然史博物館 ポーチ

解説トーク：きのこのヒミツ 佐久間大輔 学芸員

演奏：大阪市音楽団

**自然史オープンセミナー「きのこのヒミツをさぐる」**

そもそもキノコは何者なのか、なぜキノコが世界を回しているというサブタイトルがついているのか、キノコの秘密についての話。

日時：9月19日（土） 15:00～16:30

会場：自然史博物館 集会室

**自然史オープンセミナー「菌類の系統、硬いキノコを中心に」**

専門家が少なく、キノコを専門にする人でも「難しい」というサルノコシカケの仲間。目の付け所はどこなのか、分類はどのように研究されているのか、第一線で研究され

ている服部さんの研究を紹介。

日時：10月17日（土） 15:00～16:30

会場：自然史博物館 集会室

**菌類生態学講座**

菌類と他の生物との相互作用を詳しく学べる講座を企画。生態系の中での菌類の役割を概観し、研究の前線に触れることができる機会。

主催：日本菌学会・大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター

9月21日（月・祝） 菌類動物編

「アンモニア菌の世界」吹春俊光(千葉中央博物館)

「菌食動物とキノコの攻防」中森泰三(横浜国大)

「虫を分解する菌」出川洋介(筑波大)

9月22日（火・祝） 菌類植物編

「菌根を通してみた森林生態系」松田陽介(三重大)

「菌従属栄養植物とは」大和政秀（鳥取大）

「枯死木、菌類、菌食昆虫をめぐるダイナミクス」山下 聡（京大）

日 時：両日とも 午前10：30開演、16:00終了

会 場：自然史博物館 集会室

申 込：msjseminar@mus-nh.city.osaka.jp

参加費：各日とも一般1000円、菌学会会員600円(高校生以下は300円引き)。

ただし、特別展入場券とも。

#### 特別展講演会 「キノコから見える生態系」

特別展に関連して、多くの人にキノコ研究の最前線を知ってもらおう講演会。キノコの分類はどうやって研究するのか、森林生態系の中でキノコは何をしているのか、サルはキノコを食べるのか、など。

佐藤博俊(森林総研)「キノコと動植物との多様な相互作用-菌根共生とサルのキノコ食に着目して-」

折原貴道（鳥取大）「地下生菌の知られざる世界-その生態と進化について-」

日 時：9月23日（水・祝） 13：00～16：00

会 場：自然史博物館 講堂

#### 子どもワークショップ「きのこのこ」

キノコには、キノコの子どもを空に飛ばすふしぎな仕組みがある。きのこのこをみつめて、いろいろなふしぎをみつめてみよう

日 時：9月26日（土）、27日（日）

10月17日（土）、18日（日）

26日のみ13：30～ 15：30～

その他はいずれも11：00～ 13：30～ 15：30～

会 場：自然史博物館 ネイチャーホール（特別展会場内）

#### 日本変形菌研究会 公開講演会

「変形菌とその仲間たち」

孢子から育つのはアメーバー。それが成長してやがてキノコを作るふしぎな生き物変形菌。かつて南方熊楠はこの仲間の生物が動物と植物のどちらに属するかとの議論の中で菌虫、と呼んでいたほどである。広く生物を見渡すと、変形菌のように、キノコなどの菌からも動物・植物からみ出してしまうふしぎな生き物たちがいる。そのふしぎさを紹介。

主催：日本変形菌研究会

日時：11月1日（日） 14:00～16:00

会場：自然史博物館 講堂

#### ■「大恐竜展～知られざる南半球の支配者～」

恐竜の起源は南半球であろうと考えられており、そこでの資料を抜きにしては恐竜進化について語ることはできない。また、恐竜の進化は超大陸パンゲアの分裂と同時代であったため、大陸分裂と深い関わりを持っている。本特別展の展示は、これらのテーマに基づく内容となっている。ティラノサウルスを始めとする、北半球の恐竜との比較もしつつ展示した。

●会 期：平成22年3月20日～5月30日（平成21年度 10日間）

●会 場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞大阪本社（二者で実行委員会を組織）

●観覧料：大人1200円、高校・大学700円。

#### ●展示内容

1. プロローグ 「大陸移動と恐竜の進化」
2. 超大陸パンゲアの時代(三疊紀・ジュラ紀)～恐竜の出現
3. ゴンドワナ大陸の時代(白亜紀前期の恐竜)
4. ゴンドワナ大陸分裂の時代(白亜紀後期の恐竜)
5. エピローグ 「日本の白亜紀の生き物たち」

<詳細は開催日数の長かった平成22年度の館報に記載予定>

### Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

#### ■「ヘルマン・ヘッセ昆虫展」～少年の日の思い出～

会 期：平成21年12月5日～22年1月17日

会 場：自然史博物館 本館2階 イベントスペース

#### ■「深海生物の写真展」

会 期：平成22年1月23日（土）～1月31日（日）

会 場：自然史博物館 本館2階 イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館・独立行政法人海洋研究開発機構助成：日本財団

### Ⅳ. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、ま

## 展覧事業

た特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を行なっている。

### ■「出張！自然史博物館：ホネホネたんけん隊」

特別展「ホネホネたんけん隊」の関連企画として、大阪市立図書館で展示と講演会を開催した。

#### 【展示】

4/1(水)～5/20(水)：島之内図書館

4/1(水)～5/31(日)：此花図書館

4/1(水)～5/31(日)：生野図書館

5/1(金)～6/30(火)：住吉図書館

6/2(火)～7/1(水)：東住吉図書館

6/2(火)～7/30(木)：浪速図書館

6/5(金)～6/17(水)：中央図書館

7/1(水)～8/30(日)：東成図書館

8/4(火)～8/30(日)：住之江図書館

#### 【講演会】

6/6(土)：中央図書館

8/5(水)：住吉図書館

### ■「出張！自然史博物館：キノコのひみつ」

7/1(水)～8/30(日)：住吉図書館

5/1(金)～6/30(火)：東成図書館

7/16(木)～8/20(木)：阿倍野図書館

8/4(火)～9/16(水)：生野図書館

9/1(火)～10/31(土)：東住吉図書館

9/1(火)～10/31(土)：城東図書館

## V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中 正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に

書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

## VI. その他

### (1) 開館時間延長

3月から10月までの8ヶ月間の開館時間を30分延長し、午後5時閉館とした（入館は4時30分まで）。11月から2月までは、従来通り午後4時4時30分閉館（入館は4時まで）。

(2) 「関西文化の日」の11月14日（土）ならびに15日（日）を無料開放とした。

# 普及教育事業

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている (\*\*印)、また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ち、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している (\*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007年度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。行事の詳細は展覧事業22ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

### ■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年に引き続き定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、昨年より抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」\*、\*\* 高槻市

4月26日 申込196名 参加者132名

「海べのしぜん」 岬町長崎海岸

5月24日 申込381名 インフルエンザ流行で中止

「きのこ」東大阪市

6月28日 申込230名(当選150名) 参加者120名

「ツバメのねぐら」\* 奈良市

8月2日 申込186名 参加者120名

「バッタのオリンピック」\*\* 藤井寺市石川～大和川

10月13日 申込157名 参加者97名

「どんぐり」\* 長居公園

10月25日 申込178名 参加者89名

「化石さがし」 泉佐野市

12月6日 申込443名(当選154名) 参加者106名

2月14日 申込148名 参加者111名

7テーマ 7回実施 延べ参加者数749名

### ■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。2007年度から淀川水系調査を開始したことから、淀川流域を中心に行事実施場所を選定した。

「猪名川」\* 伊丹市～尼崎市

5月14日 申込60名 参加者42名

「泉原」 茨木市

9月13日 申込56名 参加者40名

「長居」 東住吉区

9月26日 参加者36名

「淀川を歩く2」 枚方市～大阪市旭区

9月27日 申込25名 参加者19名

「淀川を歩く6」 大阪市東淀川区～西淀川区

11月1日 申込38名 参加者27名

「淀川を歩く6(完結編)」

1月9日 申込29名 参加者26名

6テーマ6回実施 のべ参加者数190名

### ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。地域自然誌シリーズと同様、テーマ選定にあたっては淀川水系を意識した。

「ヒキガエル」

## 普及教育事業

4月5日	申込80名(当選61名)	参加者38名	「ホネの標本製作講座2」*	
「生駒山」			8月12日	申込54名 参加者28名
4月12日	申込78名(当選58名)	参加者39名	「イカ・タコの体のつくりを調べよう」	
「淀川汽水域の動物」			2月14日	申込18名 参加者15名
6月6日	申込64名(当選33名)	参加者49名	「淀川のコガネムシ」	
「八丁平」			2月21日	申込16名 参加者12名
6月7日	申込36名	参加者32名	「魚のからだ」*	
「高槻のカエル探し」*			2月28日	申込18名 参加者16名
6月21日	申込159名(当選57名)	参加者51名	「裸子植物」*	
「セミタケをさがそう」*			3月7日	申込26名 参加者26名
7月12日	申込92名(当選51名)	参加者42名	8テーマ 9回実施	のべ参加者数203名
「シイの森のきのこ」				
7月25日		参加者40名		
「川と水田の植物」				
9月20日	申込53名	参加者45名		
「山の秋の渡り鳥」*				
10月11日	申込27名	参加者20名		
「雑木林のキノコ」				
10月12日		参加者45名		
「アカトンボ調べ」				
10月31日	申込53名	参加者35名	4月4日(鳥)*	参加者36名
「琵琶湖の水鳥」			5月2日*	参加者82名
12月13日	申込32名	参加者20名	6月6日*	参加者60名
「溪流で暮らすカワガラス」*			7月4日(昆虫)*	参加者85名
2月6日	申込27名	参加者27名	8月1日*	参加者56名
「植物化石」			9月5日*	参加者63名
3月14日	申込74名(当選25名)	参加者19名	10月3日*	参加者55名
14テーマ 14回実施		のべ参加者数502名	11月7日*	参加者82名
			12月5日(鳥)*	参加者63名
			1月9日*	参加者52名
			2月6日*	参加者58名
			3月6日*	参加者40名
			12回実施	のべ参加者数732名

### ■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」				
4月12日		参加者7名		
「植物標本の作り方、名前の調べ方」*				
7月5日	申込60名(当選34名)	参加者22名		
「昆虫標本の作り方」*				
7月26日	申込127名(当選53名)	参加者45名		
「ホネの標本製作講座」*				
8月9日	申込173名	参加者32名		

### ■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。4・7・11月に他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の行事実施も行った。

4月4日(鳥)*	参加者36名
5月2日*	参加者82名
6月6日*	参加者60名
7月4日(昆虫)*	参加者85名
8月1日*	参加者56名
9月5日*	参加者63名
10月3日*	参加者55名
11月7日*	参加者82名
12月5日(鳥)*	参加者63名
1月9日*	参加者52名
2月6日*	参加者58名
3月6日*	参加者40名
12回実施	のべ参加者数732名

### ■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第3土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」		
4月25日		雨天中止
「街で繁殖する鳥」*		



5月23日 「初夏の虫たち」	参加者38名	「外来種1・北アメリカにおける外来種問題」 (A. Lamb氏)	
6月27日 「セミの羽化のかんさつ」	参加者35名	11月21日	参加者31名
7月25日 「大池の生き物」	雨天中止	「外来種2・淡水・汽水・海域の外来種問題」	
9月26日 「秋の渡り鳥」	参加者37名	12月19日	参加者24名
10月24日 「ダンゴムシ・ワラジムシ」*	参加者41名	「外来種3・淡水域の外来種問題—魚類について—」	
11月28日 「冬越しの虫」	参加者43名	1月16日	参加者42名
12月26日 「公園の冬鳥」*	参加者39名	「外来種4・鳥類・哺乳類・両生爬虫類の外来生物問題」	
1月23日 「冬の鳥の食べ物」*	参加者59名	2月20日	参加者49名
2月26日 「公園の冬鳥3」*	参加者48名	「外来種5・外来種問題：植物の場合」	
3月13日	参加者40名	3月20日	参加者39名
	10回実施		のべ参加者数604名

### ■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。

「葉っぱの化石」*		
4月11日		参加者108名
「火山灰のひみつ」*		
5月9日		参加者17名
「ミクロの化石」*		
6月13日		参加者45名
「砂つぶいろいろ」*		
7月11日		参加者28名
「足跡化石」*		
8月8日		参加者40名
「黒雲母で遊ぼう」*		
9月12日		参加者43名
「石になった植物化石」*		
10月10日		参加者60名
「泥のひみつ」*		
12月12日		参加者25名
「ミクロの化石」*		
1月9日		参加者28名
「微生物が作った岩石」*		
2月13日		参加者37名
「方解石をすかしてみる二重文字」*		
3月13日		参加者30名

### ■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。最近の3年間は特定のテーマを体系的に学習してもらうことを主眼とし、原則として3~4回のシリーズ企画としている。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。当館集会室で原則として毎月第1土曜日の午後3時~4時30分に開催。

「植物の繁殖1・クローナル植物」(荒木希和子氏)	
4月18日	参加者36名
「植物の繁殖2・植物の性表現」(岡崎純子氏)	
5月16日	参加者35名
「植物の繁殖3・繁殖干渉」(高倉耕一氏)	
6月20日	参加者42名
「ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」	
7月18日	参加者66名
「ホネの形」	
8月15日	参加者70名
「きのこのヒミツをさぐる」	
9月19日	参加者95名
「菌類の系統、硬いキノコを中心に」(服部力氏)	
10月17日	参加者75名

## 普及教育事業

11回実施 のべ参加者数461名

### ■街のきのこたんけん隊■

子どもゆめ基金による助成事業として大阪自然史センターが実施した。

「街のキノコ探検隊」

6月27日 参加者35名

「標本にしてキロクをとろう」

7月4日 参加者35名

「孢子観察」

8月1日 参加者45名

「きのこを語ろうパート1」

9月26日 参加者41名

「きのこを語ろうパート2」

10月3日 参加者25名

「きのこ博士入門」

10月31日 参加者38名

### ■夏休み自由研究相談会\*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスをを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受け付けた。

日 時：7月19日（日）

場 所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター

相談件数：25件（事前申込12件、当日受付13件）

### ■標本の名前をしらべようー標本同定会ー\*\*

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。本年度は8月30日に実施した。

件 数：79件、参加者数：103名。

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（7月19日）も開催している。

### ■音楽と自然の夕べ

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団によ

る演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの 実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として実施した。大阪市の博物館・美術館など8施設（大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、天王寺動物園、大阪城天守閣、大阪歴史博物館、大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室、大阪市立自然史博物館）が共同で行うキャンペーン イベント、「ミュージアムウィークス大阪2009」の期間に合わせて実施した。

日 時：9月19日（土）

会 場：博物館本館 玄関ポーチ

内 容：「きのこのヒミツ」佐久間大輔（植物研究室）

大阪市音楽団によるコンサート

参加者：850名

### ■講演会・シンポジウム

学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

#### 1. 貝類学会公開講演会

4月5日（日） 172名

#### 2. 地球科学講演会「ヒマラヤ山脈の誕生とモンスーン気候の始まり」

5月9日（土） 190名

#### 3. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム

5月10日（日） 88名

#### 4. 菌類連続講座

9月21日（月祝）・22日（火休）

参加者125名（1日目）・120名（2日目）

#### 5. 第8回日本鱗翅学会自然保護セミナー「里山の変貌による日本のチョウ類の衰退と保護」

10月3日（土）・4日（日） 129名

### ■ジュニア学芸員になろう！\*

3日間連続の実習。昨年度からタイトルを変更し、対象も小学5年生～中学生に広げて実施している。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い、結果をまとめ、展示として作成した。本年度も長居公園・植物園を調査場所とし、「昆虫（セミのぬけがらの中の生物）」、「植物（気孔の数）」、「魚（大池の魚）」の3テーマのうち、希望に基づいて取り組んでもらった。自分の目と手で調べた調査を展示として

作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている。

8月14日（金）～16日（日） 申込25名 参加者20名

#### ■はくぶつかん・たんけん隊\*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。昨年度からタイトルを変更し、対象もこれまでの小学生から小学生～中学生に広げた。本年度は申込が多かったため、両日とも午前・午後の部を設け、合計4回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者と は別枠でバックヤードショートツアーを行った。

1月10日(日)～11日（月・祝） 申込223名 参加者175名

#### ■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒に行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

##### ●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

##### ●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2010年3月31日現在の部員数は88名。

##### ●2009年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加し

た。

「ミーティング」*	4月2日	15名
「干潟のシギ・チドリ観察」*	5月5日	7名
「春の昆虫観察」	5月6日	雨天中止
「磯観察」	6月7日	8名
「初谷で昆虫採集」*	7月22日	5名
「博物館で標本実習」*	8月11日	17名
「干潟+釣り付き」	9月22日	9名
「鉾物採集」*	10月4日	12名
「ムササビ観察」*	11月3日	8名
「ミーティング」*	11月8日	7名
「化石」*	12月20日	12名
「鶴殿」*	1月5日	7名
「武庫川溪谷」	2月14日	8名
「アカガエル」	2月28日	12名
「ヒキガエルの卵塊さがし」	3月25日	雨天中止

企画15回、実施13回、参加者数のべ127名

#### ■ピオトープ

バックヤードを利用して、ピオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ピオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第三土曜日に実施した。

4月18日	参加者52名
5月16日	参加者84名
6月20日	参加者58名
7月18日	参加者50名
8月15日	参加者43名
9月19日	参加者31名
10月17日	参加者32名
11月21日	参加者27名
12月19日	参加者23名
1月16日	参加者33名
2月20日	参加者32名
3月21日	参加者52名

12回実施 のべ参加者人数517名

#### ■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワー

## 普及教育事業

クショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展関連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。原則的に毎月1度の土日に実施している。普及行事の中では、初級向け。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名募集し、研修を実施したうえで、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、3月の「ボランティア祭り」において実施してもらった。

特別展関連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業23ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

「クジラスタンプリアー」

4月29日・5月2日 参加者770名

「恐竜はりえ」

6月20日・21日

参加者155名（5月23日24日は新型インフルエンザ流行のため中止）

「ナウマンゾウカレンダー」

11月28日・29日・12月19日・20日 参加者104名

「大阪の海」

1月23日・24日・2月20日・21日 参加者176名

「ボランティアまつり」

3月27日・28日 参加者161名

32回実施 のべ参加者数2,725名（特別展関連含む）

## Ⅱ. 教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

下線の行事は文部科学省（独立行政法人科学技術振興機構）のSPP「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト 理数系教員指導力向上研修事業」の支援を受けて実施した。

「植物園案内・春の遠足下見編」

4月8日・9日 参加者24名・11名

「火山灰野外編」

5月24日 申込18名 参加者15名

「蝶・蛾の幼虫の見分け方」

6月13日 申込7名 参加者5名

「ホネ」\*

6月27日 申込16名 参加者13名

「火山灰室内-1」

6月28日 申込19名 参加者14名

「火山灰 室内編2」

8月2日 申込10名 参加者9名

「都市のコケ」

8月4日 事前申込31名 当日参加者32名

「学校の地下の地層」

8月6日・7日 申込12名 参加者8名（両日とも）

「川原の石ころ」

8月26日 申込14名 参加者13名

「『きのこのヒミツ』をまなぶ」

8月28日 参加者17名

「どんぐりの見分け方」\*

10月11日 申込22名 参加者15名

「樹脂包埋標本の作製」\*

10月25日 申込26名 参加者18名

「ひつつき虫」\*

11月8日 申込13名 参加者11名

「淡水プランクトンの採集と同定」\*

11月22日 申込29名 参加者26名

「冬越しの虫」

12月13日 申込15名 参加者9名

「スルメイカの解剖実習」

2月13日 申込16名 参加者10名

## Ⅲ. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下ののべ32名の学生を受け入れた。

### 一般実習コース

夏 期：9月2日～9月6日 14名

南野 望（神戸芸術工科大学）、中川真理子（神戸学院大学）、岡田弘毅（神戸大学）、木下恵理子（京都橘大学）、清村孝弘（滋賀県立大学）、村上大介・土井みずほ（近畿大学）、西川実紗（京都府立大学）、川下美穂（京都精華大

学)、近藤篤志(静岡大学)、西村優貴(福岡大学)、江藤梓(高知大学)、木下岳士・西野扶美枝(追手門学院大学)

秋 期:10月14日~18日 11名

市村 準・松岡美子・佐伯真季(神戸大学)、勝部麻衣(龍谷大学)、山本千尋・三好郁哉(京都府立大学)、平 絢子・名塩 収(和歌山大学)、有田優華里(京都外国語大学)、渋谷陽子(新潟大学)、松葉沙耶(広島女学院大学)

#### 普及教育専攻コース

夏 期:8月9日、14日~16日、30日 5名

西野未希・横山綾子・山出谷 歩(近畿大学)、木村陽香(追手門学院大学)、山田麻奈未(奈良女子大学)

冬 期:1月9~11日、30~31日 2名

高橋千佳(大阪芸術大学)、川本さつき(大阪府立大学)

## IV. 各種研修

### ■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっており、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

## V. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問に関係なく、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

### 1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会(TM(Teachers-Museum)委員会)を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

### 2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

#### <児童・生徒向け事業>

- 博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。

- 博物館での授業(学芸員によるレクチャー)

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。学芸員が館外に出向くことは、特別の場合を除いて行っていない(長居植物園は除く)。

2009年度は博物館内で小学校 7件、中学校 5件、高校 1件、大学 5件、合計18件の授業を行った。

2009年度の授業例:「植物のつくり」、「虫の体」、「骨」、「大阪平野のおいたち」、「流れる川の働き」など。

- 学校からの自然に関する質問への対応

自然に関する質問に関しては常時対応しているが、学校のグループやクラスでの質問の場合には、事前に連絡し

## 普及教育事業

てもらい、専門分野の学芸員が対応する体制を準備している。

### ・就業体験（インターンシップ）学生の受入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2009年度は、大阪府内の中学校7件（10人）を受け入れた。この他に職業体験に関するインタビューが4件あった。

### <先生向け事業>

#### ・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

#### ・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載されている。

2009年度は、博物館の出版物13件、ビデオ・CD-ROM・DVD41件、標本キット24件の貸し出しを行った。

#### ・貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、セミ、テントウムシ、ドングリなど（図5）。

#### ・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している大学生、総合学習に関わる活動をされている方、自然観察会の指導をされている方を対象に研修を行っている。2009年度は19回開催した（34ページ参照）。これら以外に、小中学校の教員を対象とした11件の教員研修を行った。

#### ・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。107名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

### <その他>

#### ・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2009年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

#### ・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科（地



図5. 貸出標本セット



図6. ミュージアムサービスセンター

理・歴史・公民）・理科（第2分野）の指導要領における単元と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンター（図6）があり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

## VI. 大阪自然史センター連携事業

### ■大阪自然史フェスティバル2009

大阪自然史フェスティバルは、自然関連のサークル、地域の自然保護団体などが活動を紹介し、交流を深め、市民に大阪の自然の現状や自然に関わる活動の楽しさを知っていただくイベントである。また、自然の素材を扱ったアートやゲームなどの体験コーナー、自然観察のワークショップ、講演会など多彩な内容で来場者の皆様に楽しんでいただく、自然史博物館を会場とした「自然の文化祭」である。

これまでに大阪市立自然史博物館では、大阪自然史センターと共に「大阪自然史フェスティバル」を2003年、2004年、2006年と過去3回開催しており、この2009年に4回目の開催を行った。また、2007年にはテーマを「鳥」に絞った「大阪バードフェスティバル」、2008年は、関西自然保護機構創立30周年を記念して企画した「かんさい自然フェスタ」と、さまざまなフェスティバルを催してきた。毎回多くの来場者および出展団体により大きな盛り上がりを見せ、各回の来場者は1万人を超え、多くの方々に「自然の文化祭」を楽しんでいただいている。

今回は、悪天候の中89もの自然関連のサークル、地域の自然保護団体などの団体に出席していただき、来場者は1万3千人を超え、盛況の中行われた。今回はこれまで3回の自然史フェスタとは異なり、各団体のブース展示やシンポ

ジウムなどに加え、野外および室内でのワークショップを開催した。どのワークショップも定員を上回る参加者となり、フェスティバルの新たな取り組みを示すことができた。それら中で来場者および出展団体同士の交流が進み、フェスティバルの目的の多くは達成されたのではと考えられている。

なお、このイベントは文化庁による「地域文化芸術振興プラン推進事業」による助成を受け、関西文化の日協賛・大阪市地域文化芸術振興プラン推進事業の一環として実施された。

◆主催：特定非営利活動法人 大阪自然史センター、関西自然保護機構、大阪市立自然史博物館、大阪市地域文化芸術振興プラン推進事業実行委員会

◆協賛：社団法人日本望遠鏡工業会、オリンパスイメージング株式会社、株式会社ケンコー、興和株式会社、スワロフスキー オプティック、株式会社ニコンビジョン、株式会社ビクセン、カラータ株式会社、特定非営利活動法人生態工房、株式会社日本鳥類調査・Hobby's World、株式会社文一総合出版、招き鳥の巣、株式会社ワイバード

◆協力：きんき環境館、谷口高司鳥絵工房

◆開催日：2009年11月14日（土）・15日（日）

◆総入場者数：11月14日（土）5590名、15日（日）7778名、計13368名

ブース出展団体：89団体

◆講演会プログラム

11月14日：自然史フェスティバル2009記念シンポジウム「自然を"仕事"相手にしてみようー自然保護、生物多様性を社会の中にー」

11月15日：関西自然保護機構主催シンポジウム「コケとあるく」

◆ワークショップ（○内は実施団体）

- ・「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」（谷口高司鳥絵工房）
- ・「水辺の鳥を観察しよう」（日本野鳥の会 大阪支部）
- ・「カメカメ調査隊：幻のニホンインシガメを探せ！」（生態工房）
- ・「博物館裏庭ビオトープ」（自然史博物館友の会）

## VII. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として

## 普及教育事業

運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を65回の行事を実施し、延べ2527名（2008年度は1894名）の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

### ■庶務報告

- 2009年度の友の会会員数は、1750名（1年会員1493名、4月会員68名、半年会員103名、10月会員44名、賛助会員42名）であった。2008年度は1809名。  
※2009年度賛助会員（敬称略）浅井 彪、麻野 浩、浅葉 清、天野遼平、石井久夫、石田 律、浦野動物病院、永徳 定、大岩 誠、大内和太郎、大久保源志郎、大宮文彦、加藤江理子、川端優太、小郷一三、小林ふさ子、初宿成彦、白川勝正、杉本周作、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田邊一三、田村美美子、寺田雅章、時枝奉之、永井敦子、中井紗織、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、野村典子、樋渡諦児、福西勝之、宮川五十雄、宮武頼夫、山下良寛、山西良平、山本 章、和田 岳、匿名1名
- 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
- 事業ワーキンググループで事業に関する内容について、9回の議論を行い、評議員会に諮った。2008年度から事業ワーキンググループメンバーを友の会評議員だけでなく、一般会員からも募っている。
- 評議員として、稲本雄太さんが新たに加わった。

### ■事業報告

- Nature Study 誌55巻1号（通巻656号）～12号（通巻667号）を発行した。また、2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
- 評議員の堀田満さんの南方熊楠賞を受賞を記念して、出身地である高槻市で行われた講演会（5月11日）に協力した。
- 橿原昆虫館虫祭り（6月7日）に出展し、セミ大声大会の実施、友の会の紹介、入会の案内を行った。
- 水都大阪2009・水辺のにぎわいフェスティバルブースに出展し、「水辺の自然教室」コーナーの開設と友の会の紹介、入会案内を行った。

- 大阪自然史フェスティバル（11月14日～15日）に出展し、ピオトープ案内とシュロ工作コーナーの開催、友の会の紹介、入会の案内を行った。
- 行事を65回実施し、延べ2527名（2008年度は1894名）の参加があった。以下に行事名と参加者数を記す。
  - 友の会総会2009 1月25日（日） 174名
  - 月例ハイキング（11回499名参加）

1月18日（日）	高槻のリスを探そう	32名
2月15日（日）	矢田丘陵	64名
3月28日（土）	加太の海藻を食べよう	64名
4月19日（日）	春の二上山麓	117名
5月17日（日）	箕面の川虫探し	23名
6月21日（日）	初夏の宝塚・西谷から道場	27名
7月19日（日）	生駒山麓を歩く	37名
8月16日（日）	比良山びわこパレイ	40名
9月20日（日）	コオロギ相撲	33名
11月29日（日）	工作ハイキング	39名
12月20日（日）	大和葛城山	23名
  - 友の会秋まつり「野草を飲んでお茶でボン」

10月12日（月祝）	秋祭りプレイベント「若山神社で食材集め」	34名
10月18日（日）	秋祭り本番	113名
  - 友の会合宿

5月30日（土）-31日（日）	昆虫・プロジェクトY 合同合宿「奥猪名」	33名
6月20日（土）	「西津軽合宿」勉強会	23名
7月31日（金）-8月2日（日）	「西津軽」	41名
9月19日（土）-21日（月祝）	「吉野川・勝浦川」	55名
  - 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム

7月19日（日）-20日（月）		92名
-----------------	--	-----
  - 鞆公園のセミのぬけがら調査

9月6日（日）		75名
---------	--	-----
  - 友の会の夕べ

4月25日（土）	岡村コレクション展	52名
7月18日（土）	ホネホネたんけん隊	60名
9月23日（水祝）	きのこのひみつ	150名
  - 海の向こうの見聞録発表会

12月27日（日）		131名
-----------	--	------
  - 裏庭ピオトープの日

1月10日（土）、2月7日（土）、3月7日（土）、4月18日（土）、5月16日（土）、6月20日（土）、7月18日（土）、8月15		
---	--	--



日（土）、9月19日（土）、10月17日（土）、11月21日（土）、  
12月13日（日）

会計監査 加納康嗣、左木山祝一

12回実施、のべ499名

(10) 鳥類フィールドセミナー

4月11日（土）、4月18日（土）、7月25日（土）、10月  
3日（土）、10月17日（土）

5回実施、のべ157名

(11) バックヤードツアー

2月8日（日）、2月11日（水祝） 合計88名

(12) 特別行事

4月12日（日） 小塩山の植物 27名

(13) プロジェクトY 関連・班別研修会（21回224名）

4月11日（土）	フジツボ班	9名参加
4月19日（日）	甲虫班	5名参加
4月26日（日）	ため池の鳥	12名参加
4月26日（日）	水質班	12名参加
5月6日（水振）	カブトエビ	19名参加
5月17日（日）	魚班	4名参加
5月23日（土）	植物班	19名参加
5月24日（日）	甲虫班	3名参加
6月20日（土）	フジツボ班	7名参加
7月4日（土）	フジツボ班	8名参加
7月22日（水）	甲虫班	10名参加
8月20日（木）	甲虫班	14名参加
8月29日（土）	中間発表会	39名参加
9月23日（水祝）	魚班	11名参加
10月4日（日）	フジツボ班・貝班	5名参加
10月10日（土）	貝班	7名参加
10月31日（土）	プラナリア班	3名参加
11月3日（火祝）	貝班	8名参加
11月22日（日）	甲虫班	12名参加
11月28日（土）	アメンボ班	5名参加
12月6日（日）	甲虫班	12名参加

■役員

会 長 西川喜朗

副 会 長 谷田一三、山西良平

評 議 員 板本瑤子、稲本雄太、梅原 徹、浦野信孝、  
河合正人、高田みちよ、田代 貢、永井敦子、  
鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、  
堀田 満、道盛正樹、三宅規子、村井貴史、  
山下裕子、米澤里美

# 広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

## <体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と管理課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

## <広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、特別展の開催を発表している
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
大阪市内広報掲示板へのポスター掲示	特別展の際には応募し、当選すれば掲示している。B2 縦またはB3 横のポスターが750部掲示できる。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。 公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを60本製作し、長居公園に

	掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいと、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：最寄り駅である地下鉄長居駅改札口付近に、毎月のイベントを掲出している。特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
ゆとりとみどり振興局文化部での広報	文化部で作成された、8館・園のパンフレット（日・英・韓・中の4カ国語）を館内で配布している。また、文化部の博物館群担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。情報提供先：MBSラジオ、FMCOCORO、CATV”OSAKA ほっとタイム”、大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、OSAKA 再発見マガジン、毎日新聞「満載イベント」、ミュージアムウィークス8onポスター
大阪市文化財協会内の共同広報	指定管理者である大阪市文化財協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館の3施設で共同広報を行っている。文化財協会の機関誌へのチラシの同封、大阪歴史博物館のロビーでの当館特別展の広報、大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

## <広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	作成したチラシ類や催し物案内を博物館施設、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市内の小中学校に対しては通郵便を活用している。特別展に関しては、日帰り圏内の博物館施設、大阪府内・大阪市内の図書館・社会教育施設に送付している。

地元小学校への広報	イベントの種類によっては、小学生をもつ地元の家庭への広報として、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。全生徒配布は、東住吉区・住吉区の2区の場合と東住吉区・住吉区・阿倍野区の3区の場合、東住吉区・住吉区・阿倍野区、平野区の4区の場合がある。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元町内会への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲示依頼、町内会長、女性部長宛の内覧会招待状の配布依頼を行っている。
地元商店街への広報	地元の商店街や商店には、特別展ポスターの掲示依頼、割引券の配布依頼を行っている。

テレビ放送 (特別展以外)	4/5 関西テレビ放送「サタうま！」VTRコーナー「お願い！夢馬券」ナガスクジラ骨格標本 5/24 読売テレビ「ウキキサンデー」キャラクターのウキキとミニニが博物館を見学、体験 7/4 毎日放送「風ニュース」博物館の骨格標本 7/19 読売テレビ「大阪ほんわかテレビ」植物レプリカの展示状況を紹介 10/12 NHK総合テレビ 特別番組「皇室の名宝～珠玉の技が生んだ美～」木村兼葭堂の貝類標本 11/2 TBSテレビ「総力報道！THE NEWS」博物館建物の外観について 11/15 NHK大阪放送局デジタルラジオ「ぼろぼろ子育て」博物館内の撮影 12/5 朝日放送「スーパーJチャンネル」ヘルマン・ヘッセ昆虫展について 1/17 NHK教育テレビ「日曜美術館」木村兼葭堂の貝類標本の撮影
------------------	--

<2009年度の広報状況>

印刷物の発送先 (学校以外)	件数: 大阪市内193件、大阪府内194件、その他の府県246件。施設種類: 博物館、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋 (40,000枚)、ワークショップ5回 (151,000枚)、地球科学講演会 (15,000枚)、特別展「世界のチョウと甲虫」(ポスター-B2 3,000枚、B3 5,100枚、チラシ 75,000枚)、特別展「ホネホネたんけん隊」(ポスター-B2 2,350枚、B3 12,800枚、チラシ 60,000枚)、ホネホネサミット (24,500枚)、音楽と自然のひろば (25,000枚)、特別展「きのこのヒミツ」(ポスター-B2 2,350枚、B3 170枚、チラシ 54,000枚)、大阪自然史フェスティバル (ポスター-B2 1,300枚、B3 12,800枚、チラシ 60,000枚)、ヘルマン・ヘッセ昆虫展 (ポスター-B2 350枚)、特別展「大恐竜展」(当館発送担当分ポスター-B2 600枚、B3 14,450枚、チラシ 277,000枚)、毎月の催し物案内 (2,000枚)
情報提供しているメディア関係	約194社 (特別展関係100、行事情報94)
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ21社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区

<特別展の広報>

■特別展「世界のチョウと甲虫」会期 4月18日～5月31日 (日)

プレス発表: 2009年2月6日

内覧会: 2009年4月17日

プレス内覧会: 9社 (朝日放送、読売新聞 映像関係 (WEB)、C-work の現代ビジネスプラン、サンケイリビング、赤旗新聞社、JOBBS ラジオ、サンケイ新聞社、読売新聞大阪本社 科学部、大阪日日新聞)

一般内覧会: 146名 (地元町内会関係者、友の会会員、招待者)

広報媒体: 69の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ1、ラジオ2。

■第39回特別展 ホネホネたんけん隊 7月4日 (土)～8月30日 (日)

プレス発表: 2009年4月21日、5月27日

内覧会: 2009年7月3日

プレス内覧会: 10社 (毎日新聞、読売ライフ、読売新聞大阪本社、NHK 大阪放送局、読売テレビ、JOBBS ラジオ、

## 広報事業

---

「うえまち」新聞、読売テレビ（報道）、朝日新聞、大阪日日新聞)

開会式・一般内覧会：午後から一般内覧会 117名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

広報媒体：53の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ3、ラジオ0。

■第40回特別展 きのこのヒミツ 9月19日（土）～11月3日（日）

プレス発表：2009年4月21日、8月4日

内覧会：2009年9月18日

プレス内覧会：8社（毎日新聞、読売新聞、JOM すみよし、KANSAI1週間、うえまち新聞、産経新聞、読売新聞、JOBBER ラジオ）

一般内覧会：122人（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

広報媒体：52の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ2、ラジオ2。

# 刊 行 物

\*は館外研究者、[No. ]は当館業績番号。

9日発行。700円。

## ■大阪市立自然史博物館研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第64号、2010年3月31日発行、36ページ。

鈴木寿之\*・向井貴彦\*・吉郷英範\*・大迫尚晴\*・鄭 達壽\*：  
トウヨシノボリ縞鱸型の再定義と新標準和名の提唱。1-14。  
[No. 418]

田中文也\*・鈴木寿之\*・岩槻幸雄\*：日本初記録のフェダイ科フェダイ属魚類イモトフェダイ（新称）*Lutjanus madras*。15-17。[No. 419]

鶴井香織\*・西田隆義\*：ハラヒシバツタ（バツタ目ヒシバツタ科）における黒紋型頻度の緯度クライン。19-24。[No. 420]

畦 浩二\*・道盛正樹\*・芦田喜治\*・狩野登之助\*・木村全邦\*・細井啓子\*・中山敦仁\*・佐久間大輔：大阪府蘚苔類資料2 長居公園（大阪市）の蘚苔類。25-36。[No. 421]

## ■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第10号、2009年12月28日発行、16ページ。

藤井伸二\*・内貴章世：大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録4ーニシキギ科ー。143-158。[No.417]

## ■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録

第42集 内貴章世・松井 淳\*・藤井伸二\*・瀬戸 剛\*著  
「奈良県産維管束植物標本目録 I. シダ植物」B5版。全115ページ。2010年3月31日発行。販価900円。

## ■常設展解説書ミニガイド

● ミニガイド No. 「ナガスケ」

こども向け絵本、A5横版、本文32ページ。2010年平成22年1月5日発行。400円。

## ■特別展解説書

● 第39回特別展「ホネホネたんけん隊 ホネで学ぶ、ホネで楽しむ」

一般市民向け、B5縦版、本文144ページ。平成21年7月4日発行。1000円。

● 第40回特別展「きのこのヒミツ」解説書「きのこのヒミツを知るために」

一般市民向け、B5縦版、本文65ページ。平成21年9月1

# 連携(ネットワーク)

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

## 〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。

### (中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

## 〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

### (中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、活連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げることができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは 昨年末に関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、今年度は関西自然フェスタ2008を開催し、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF 関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

## 高校生物研究会など

- ・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2009年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

## 西日本自然史系博物館ネットワーク

学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO 法人である。設立5年目になり西日本の自然史系博物館のネットワークとして基盤が築かれつつある。当館も中核となる加盟館として連携し、以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、博物館展示リニューアルに関するワークショップ、フォーラム「市民調査と博物館」、展示照明の技術開発に関する実践検討講座など。

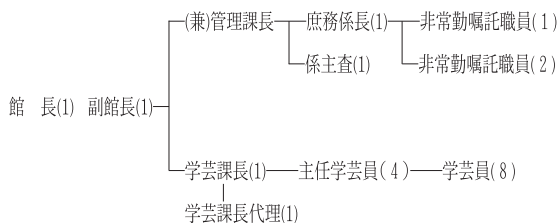
## I. 沿革

- 昭和24年11月 8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
- 昭和25年 4月 1日－自然科学博物館費予算に計上
- 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下にて展示開設
- 昭和27年 4月17日－博物館相当施設に指定
- 昭和27年 6月 2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
- 昭和27年 7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）
- 昭和27年10月 1日－筒井嘉隆 館長に就任（39.7.4退任）
- 昭和32年 6月 7日－市立美術館より西区靉2丁目（元靉小学校校舎改造）に移転
- 昭和33年 1月13日－開館
- 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
- 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
- 昭和39年 8月 1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40.7.31退任）
- 昭和40年 8月 1日－千地万造 館長に就任（58.6.1退任）
- 昭和42年 ー大阪市総合計画局"30年後の大阪の将来計画"により長居公園内に新館敷地確定
- 昭和44年 8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織
- 昭和45年 4月 ー自然史博物館建設委員会組織
- 昭和47年 1月21日－自然史博物館建設工事着工
- 昭和48年 3月31日－自然史博物館建設工事竣工
- 昭和48年 4月 1日－旧館閉館
- 昭和48年 7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
- 昭和49年 4月 1日－大阪市立自然史博物館条例公布
- 昭和49年 4月26日－自然史博物館開館式举行
- 昭和49年 4月27日－開館
- 昭和51年 8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
- 昭和58年 7月 1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－61.3.31退任）
- 昭和59年 6月 ー常設展更新基本計画案策定
- 昭和60年 3月 ー常設展更新計画書策定
- 昭和61年 3月31日－常設展更新業務完成
- 昭和61年 4月 1日－新装開館
- 昭和61年 4月 1日－小川房人 館長に就任（兼務－2.3.31定年退職）
- 昭和61年 4月 1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2.3.31退任）
- 平成 2年 4月 1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3.3.31退任）
- 平成 2年度 ー文化施設整備構想調査
- 平成 3年 4月 1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5.3.31退任）
- 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4.3.31定年退職）
- 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
- 平成 4年 4月 1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7.3.31定年退職）
- 平成 7年 4月 1日－宮武頼夫 館長に就任（9.3.31定年退職）
- 平成 7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
- 平成 8年度 ー展示更新基本計画及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
- 平成 9年 4月 1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10.3.31退職）
- 平成 9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
- 平成10年 4月 1日－那須孝悌 館長に就任（13.3.31定年退職）
- 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築工事着工
- 平成13年 3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工
- 平成13年 4月 1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）
- 平成13年 4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式举行花と緑と自然の情報センター開館
- 平成17年 4月 1日－山西良平 館長に就任
- 平成18年 3月 1日－本館リニューアルオープン
- 平成18年 4月 1日－指定管理により(財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
- 平成19年 3月24日－第5展示室一部リニューアルオープン
- 平成20年 4月26日－第5展示室全面リニューアルオープン

# 庶務

## Ⅱ. 組織

### ■職員数 (平成21年4月1日現在) 計21名



### ■職員名簿 (平成21年4月1日現在)

職名	氏名	職種	氏名
館長	山西 良平	学芸課長	樽野 博幸
副館長兼管理課長	清島 英治	学芸課長代理	川端 清司
庶務係長	木全 達男	主任学芸員	金沢 至
係主査	美川 真一	〃	波戸岡 清峰
嘱託職員	日達 昇	〃	塚腰 実
〃	吉田 義昭	〃	初宿 成彦
〃	竹村 勇治	学芸員(動物)	和田 岳
		学芸員(植物)	佐久間大輔
		学芸員(四紀)	石井 陽子
		学芸員(四紀)	中条 武司
		学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
		学芸員(植物)	内貴 章世
		学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	志賀 隆

### ■人事異動

平成21年4月1日 初宿 成彦 主任学芸員に就任  
 平成22年3月31日 清島 英治 大阪市退職  
 木全 達男 ゆとりとみどり振興局  
 文化部文化振興担当へ  
 転出  
 日立 昇 退職  
 吉田 義昭 退職

## Ⅲ. 庶務日誌

### ■館長受嘱委員 (～平成22年 3月31日)

全国科学博物館協議会 理事  
 平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日  
 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会委員  
 平成20年 4月 1日～平成22年 3月31日  
 財団法人 大阪科学技術センター 評議員  
 平成21年 4月 1日～平成22年 3月31日  
 財団法人 大阪市文化財協会 理事  
 平成20年 4月 1日～平成22年 3月31日  
 財団法人 日本博物館協会 理事  
 平成20年 6月10日～平成22年 3月31日  
 兵庫県立人と自然の博物館 協議会委員  
 平成19年10月 8日～平成23年10月 7日  
 大阪府文化財保護審議会委員  
 平成20年 1月19日～平成22年 1月18日  
 独立行政法人国立科学博物館評議員  
 平成21年 4月 1日～平成23年 3月31日



## IV. 決算

■平成19年度～平成21年度

(単位 千円)

		事 項	平成19年度 決算	平成20年度 決算	平成21年度 決算
入 歳	第 1 部	入 館 料 ほ か	26,897	23,986	20,675
		雑収(展示解説等売却代)	1,650	1,538	2,283
		国 庫 補 助 金	0	0	0
	第 1 部 計		28,547	25,524	22,958
	第 2 部	府 補 助 金	0	0	0
	第 2 部 計		0	0	0
第 1 部・第 2 部合計		28,547	25,524	22,958	
出 歳	第 1 部	常 設 展 覧 事 業	1,532	1,745	1,877
		特 別 展 覧 事 業	10,277	16,340	10,263
		調 査 研 究 事 業	12,413	9,291	11,476
		資 料 収 集 保 管 事 業	3,242	2,629	8,211
		普 及 教 育 事 業	4,532	4,984	4,834
		充 実 活 性 化 事 業	2,170	2,112	2,282
		一 般 維 持 管 理 費	319,884	330,589	306,643
		小 計	354,050	367,690	345,586
	第 2 部	館 蔵 品 整 備 事 業	0	0	0
		寄 贈 標 本 整 理 事 業	0	0	0
		デジタルミュージアムの推進事業	0	0	0
		施 設 整 備 事 業 等	0	0	0
		収 蔵 庫 設 備 整 備 事 業	0	0	0
小 計		0	0	0	
第 1 部・第 2 部合計		354,050	367,690	345,586	

# 庶 務

## V. 入館者数 (平成21年度)

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体				個 人		無料計			
	大 人	高・大	大 人	高・大		幼・保育園	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体引率者	中学生以下		優待・招待 その他		
(21) 4	4,789	199	403	338	5,729	159	6,002	189	30	427	4,145	3,461	14,413	20,142	27
5	6,986	291	59	106	7,442	1,631	7,952	123	78	677	5,186	2,687	18,334	25,776	27
6	2,923	115	16	0	3,054	669	3,777	416	90	409	2,250	1,173	8,784	11,838	25
7	2,081	182	17	94	2,374	625	0	66	16	78	5,659	6,515	12,959	15,333	27
8	1,139	129	5	99	1,372	85	0	50	40	65	14,644	19,141	34,025	35,397	26
9	5,721	242	19	0	5,982	523	567	24	9	75	3,874	2,015	7,087	13,069	26
10	4,119	304	105	117	4,645	1,260	10,787	167	305	1,116	2,495	1,821	17,951	22,596	27
11	2,738	148	352	39	3,277	1,373	2,005	1,010	50	341	3,454	4,145	12,378	15,655	25
12	1,412	258	61	0	1,731	126	745	225	3	80	1,198	813	3,190	4,921	24
(22) 1	2,821	259	14	0	3,094	284	300	265	29	83	1,874	1,245	4,080	7,174	24
2	2,273	97	119	0	2,489	355	197	95	0	68	2,014	1,062	3,791	6,280	24
3	4,446	240	146	0	4,832	893	292	312	32	206	5,626	2,050	9,411	14,243	26
計	41,448	2,464	1,316	793	46,021	7,983	32,624	2,942	682	3,625	52,419	46,128	146,403	192,424	308

## ■無料団体観覧内訳 (平成21年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	93	5,285	55	2,698	148	7,983
小 学 校	128	11,641	214	20,983	342	32,624
中 学 校	39	1,458	28	1,484	67	2,942
特別支援学校・他	8	207	5	302	13	509
福 祉 施 設	10	91	6	82	16	173
団 体 引 率 者		1,624		2,001		3,625
計	278	20,306	308	27,550	586	47,856

■特別展入館者数（平成10年度～平成21年度）

年	区分	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
		大人	高・大	優待・ 他無料	中学生以下 無	大人	高・大	中学生以下 無				
10		8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8.1～10.11	61	都市の自然
11		8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12		7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～9.24	58	干潟の自然
13		957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～5.27	28	50周年だよ!標本集合!!
		4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～7.22	38	牧野富太郎と植物画展
		1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～9.24	45	レッドデータ生物
		2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
		4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
		840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～3.31	14	世界の蝶と甲虫
14		2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～5.12	36	世界の蝶と甲虫
		1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～9.1	50	化石からたどる植物の進化
		6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見る「がん」展
15		4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～8.31	50	日本鳥の巣図鑑
		4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～2.1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2
16		1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4.1～5.30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉の世界
		2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～9.5	44	貝ーその魅力とふしぎ
17		959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～9.4	44	ナチュラリスト展
		103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
18		2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～9.18	45	大和川展
19		8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7.7～9.2	51	世界一のセミ展
		31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
		8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ!
20		28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4.1～6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ!
		30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～9.21	56	ダーウィン展
		1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12.7	38	地震展
21		4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～5.31	38	世界のチョウと甲虫展
		1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7.4～8.30	50	ホネホネたんけん隊
		4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11.3	39	きのこのヒミツ展
		12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～3.31	10	大恐竜展

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成21年度 83件

年月日	団体名	人数
21.4.3	日本貝類学会	
21.4.4	日本貝類学会	
21.4.5	日本貝類学会	
21.4.18	近畿植物同好会	10
21.4.19	大阪湾環境再生連絡会	
21.4.22	ミュージアムウィークス会議	
21.4.25	WSサポートスタッフ研修	25
21.4.29	WSサポートスタッフ	12
21.5.2	WSサポートスタッフ	10
21.5.5	探検クイズサポートスタッフ	5
21.5.9	地球科学講演会	
21.5.10	日本鱗翅学会	10
21.5.17	花山自治会役員研修	15

年月日	団体名	人数
21.5.31	野尻湖花粉グループ	
21.6.20	ピオトーブ	58
21.6.21	WSサポートスタッフ	5
21.6.28	探検クイズサポートスタッフ	2
21.7.1	GBIF会議	
21.7.5	WSサポートスタッフ研修	15
21.7.11	鳥の調査の勉強会	
21.7.19	ナイトミュージアム	46
21.7.20	ナイトミュージアム	46
21.8.1	植物園案内	
21.8.6	WSサポートスタッフ研修	10
21.8.8	WSサポートスタッフ	5
21.8.9	昆虫情報処理研究会	

庶務

■集會室 平成21年度 96件

年月日	団体名	人数
21. 8. 15	ピオトーブ	43
21. 8. 16	WS サポートスタッフ	5
21. 8. 22	ホネサミット	
21. 8. 23	ホネサミット	
21. 8. 26	教員実習	
20. 8. 27	維新派	
21. 8. 29	WS サポートスタッフ	5
21. 8. 30	標本同定会	
21. 9. 5	植物園案内	
21. 9. 12	ジオラボ補助スタッフ	
21. 9. 19	音楽団コンサート	
21. 9. 27	大阪湾見守りネット	
21. 10. 2	鱗翅学会	10
21. 10. 3	鱗翅学会	10
21. 10. 4	鱗翅学会	10
21. 10. 10	ジオラボ準備	
21. 10. 17	植物園案内	
21. 10. 19	西日本ネット	
21. 10. 21	8ON 会議	
21. 10. 24	甲虫学会	10
21. 10. 31	自然写真講座講評会	
21. 11. 3	昆虫情報処理研究会	13
21. 11. 7	鳥の調査の勉強会	
21. 11. 14	自然史フェスティバル	
21. 11. 15	自然史フェスティバル	
21. 11. 21	自然写真講座講評会	
21. 11. 29	WS サポートスタッフ	5
21. 12. 13	甲虫学会	10
21. 12. 15	JST 無脊椎 DB 会議	
21. 12. 17	西日本鳴く虫	
21. 12. 19	近畿植物同好会	10
21. 12. 20	WS サポートスタッフ	3
21. 12. 23	メタセコイアシンポ実行委員会	
21. 12. 25	渡りチョウを調べる会	10
22. 1. 9	鳥類フィールドセミナー	31
22. 1. 10	野尻湖花粉グループ	
22. 1. 11	野尻湖花粉グループ	
22. 1. 17	大阪石友会	
22. 1. 23	大阪自然史センター総会	
22. 1. 31	友の会総会	36
22. 2. 3	環境省	
22. 2. 6	BYQ	
22. 2. 7	近畿植物同好会	10
22. 2. 11	友の会バックヤードツアー	
22. 2. 13	ハチ研究会	7
22. 2. 18	甲虫学会	7
22. 2. 20	鳥類フィールドセミナー	
22. 2. 21	昆虫情報処理研究会	15
22. 2. 27	室内実習研修	
22. 3. 14	大阪石友会	
22. 3. 19	大恐竜展	
22. 3. 20	大恐竜展	
22. 3. 21	大恐竜展	
22. 3. 22	大恐竜展	
22. 3. 26	WS サポートスタッフ	10
22. 3. 27	WS サポートスタッフ	10
22. 3. 28	WS サポートスタッフ	10

年月日	団体名	人数
21. 4. 1~3	遠足下見説明会	114
21. 4. 3~5	日本貝類学会	
21. 4. 7~10	遠足下見説明会	521
21. 4. 11	鳥類フィールドセミナー	60
21. 4. 12	鳥の調査の勉強会	7
21. 4. 15	大阪インターナショナルスクール	19
21. 4. 17	特別展「世界のチョウと甲虫」プレス内覧会	12
21. 4. 18	自然史オープンセミナー	36
21. 4. 19	プロジェクトY植物班	5
21. 4. 26	プロジェクトY水質班	11
21. 5. 2	甲虫学会	7
21. 5. 16	鳥類フィールドセミナー 自然史オープンセミナー	35
21. 5. 24	自然写真講座	4
21. 5. 29	大阪市下水道 OB 会	30
21. 5. 31	大阪石友会	
21. 6. 7	NACS-J レクチャー	15
21. 6. 10	松原市理科部会	15
21. 6. 20	自然史オープンセミナー	42
21. 6. 21	甲虫学会	15
21. 6. 23	博物館実習	
21. 6. 27	自然写真講座	5
21. 6. 28	ホネ展関連企画	
21. 7. 5	ホネ展関連企画	
21. 7. 8	保全協会	
21. 7. 12	地学団体研究会	
21. 7. 18	自然史オープンセミナー	66
21. 7. 19~20	ナイトミュージアム	
21. 7. 22	大阪府立農業高等学校 クラブ	
21. 8. 2	プロジェクトYカブトエビ	8
21. 8. 7	視察対応	
21. 8. 8	ハチ研究会	10
21. 8. 9	「ジュニア学芸員になろう」打ち合わせ	6
21. 8. 15	ピオトーブ 自然史オープンセミナー	43 70
21. 8. 19	大阪市教育センター研修	34
21. 8. 20	遠足下見説明会	12
21. 8. 22~23	ホネホネサミット	
21. 8. 25~28	遠足下見説明会	242
21. 8. 29	プロジェクトY 中間発表	
21. 8. 30	標本同定会	124
21. 9. 1~4	遠足下見説明会	116
21. 9. 12	なにわホネホネ団	
21. 9. 19	大阪市音楽団コンサート	
21. 9. 27	レクリエーション協会	
21. 10. 3~4	鱗翅学会	30
21. 10. 10	なにわホネホネ団	
21. 10. 14	シニア自然カレッジ	
21. 10. 16	実習	
21. 10. 17	鳥類フィールドセミナー	38
21. 10. 18	友の会秋祭り	
21. 10. 19	西日本ネット	
21. 10. 24	甲虫学会	27
21. 10. 31	野鳥の会	
21. 11. 3	自然史OB会	
21. 11. 7	ダンゴムシ	
21. 11. 8	ジュニア自然史クラブ	7

※館内の会議・作業等の利用は割愛します。

年月日	団体名	人数
21.11.14~15	自然史フェスティバル	
21.11.21	ピオトーブ	27
	自然史オープンセミナー	31
21.11.22	ハチ研究会	9
21.11.23	高校生物教育研究会	
21.11.28	鳥類フィールドセミナー	
21.11.29	水生昆虫研究会	30
21.12.4	NEXCO	
21.12.6	関西トンボ談話会	
21.12.12~13	甲虫学会	59
21.12.19	鳥の調査の勉強会	
	自然史オープンセミナー	24
21.12.6	しだとこけ談話会	
21.12.27	友の会海の向こうの見聞録	131
22.1.9	博物館実習	
22.1.10~11	はくぶつかんたんけん隊(スタッフ控え室)	10
22.1.16	鳥類フィールドセミナー	
	自然史オープンセミナー	42
22.1.17	近畿植物同好会	
22.1.24	野尻湖友の会	50
22.1.30	博物館実習	
22.1.31	友の会総会	204
22.2.6	橿原	
22.2.7	関西トンボ談話会	30
22.2.11	友の会バックヤードツアー	62
22.2.13	きしわだ自然資料館	40
22.2.16	館長懇談会	
22.2.20	自然史オープンセミナー	49
22.2.21	大阪湾海岸生物研究会	40
22.2.27	アサギマダラを調べる会	25
22.2.28	蝶類保全協会	
22.3.6	鳥類フィールドセミナー	
22.3.7	近畿植物同好会	
22.3.14	大阪鳥類調査グループ	
22.3.20	自然史オープンセミナー	39
22.3.21	甲虫学会	
22.3.22	大恐竜展	
22.3.26	大恐竜展	
22.3.28	関西トンボ談話会	30

■実習室 平成21年度 81件

年月日	団体名	人数
21.4.2	ジュニア自然史クラブ	15
21.4.4	双翅目談話会	39
21.4.5	貝類学会	
21.4.11	ジオラボ研修	
21.4.18	ピオトーブ	52
21.4.19	菌類談話会	
21.4.26	野尻湖友の会(雨の場合)	
21.4.29	なにわホネホネ団	
21.5.4	なにわホネホネ団	
21.5.5~6	プロジェクトY	18
21.5.10	なにわホネホネ団	
21.5.16	ピオトーブ	84
21.5.24	火山灰実習 野外編	15
21.5.31	昆虫情報処理研究会	13

年月日	団体名	人数
21.6.6	ハチ研究会	8
21.6.14	菌類談話会	
21.6.20	なにわホネホネ団	
21.6.27	教員向け ホネ	13
21.6.28	火山灰実習 室内編1	14
21.7.4	植物園案内	
21.7.5	植物標本の作り方	22
21.7.11	植物標本の作り方	
21.7.12	ホネ展ワークショップ	
21.7.18	ピオトーブ	50
21.7.19~20	ナイトミュージアム	92
21.7.25	なにわホネホネ団	
21.7.26	昆虫標本の作り方	45
21.8.1~2	火山灰実習 室内編2	9
21.8.4	教員向け コケ	32
21.8.5	大阪市教育センター研修	20
21.8.6~7	教員向け ボーリングコア	16
21.8.8	大阪鳥類研究グループ	
21.8.9	室内実習 ホネ標本	32
21.8.11	ジュニア自然史クラブ	17
21.8.12	ホネ実習	28
21.8.14~16	ジュニア学芸員になろう	20
21.8.17~20	なにわホネホネ団	
21.8.21	教員研修 八尾市	14
21.8.22~23	ホネホネサミット	
21.8.26	教員向け 石ころ	13
21.8.27	咲くやこの花中学校	20
21.8.28	教員向け キノコ	17
21.8.30	標本同定会	124
21.9.2~6	博物館実習	
21.9.11	職業体験	2
21.9.12	なにわホネホネ団	
21.9.19	ピオトーブ	31
21.9.20	コロログ相撲	33
21.9.30	鉾物クラブ	
21.10.3	植物園案内	
21.10.10	なにわホネホネ団	
21.10.11	教員向け実習 どんぐり	15
21.10.14~16	博物館実習	
21.10.17	ピオトーブ	32
21.10.18	友の会秋祭り	113
21.10.20	近畿環境館	
21.10.24	樹脂包埋研修	
21.10.25	教員向け 樹脂包埋	18
21.10.31	街のきのこ探検隊	38
21.11.3	植物園案内ダンゴムシ補助スタッフ研修	
21.11.7	植物園案内	
21.11.8	なにわホネホネ団	
21.11.14~16	自然史フェスティバル	
21.11.18	職業体験	2
21.11.21	なにわホネホネ団	
21.11.22	教員向け プランクトン	26
21.11.28	ダンゴムシワラジウムシ	43
	アメンボ	5
21.12.5	植物園案内	
21.12.6	プロジェクトY甲虫班	13
21.12.11	近畿盲学校 理科部	8

## 庶務

年月日	団体名	人数
21.12.12	大阪自然環境保全協会	
21.12.13	教員向け 冬越しの虫	9
21.12.19	ビオトープ	23
	ハチ研究会	13
21.12.23~25	なにわホネホネ団	
22.1.9	植物園案内	
22.1.10~11	はくぶつかんたんけん隊	
22.1.16	ビオトープ	33
22.1.17	なにわホネホネ団	
22.1.19	シニア自然大学	
22.1.23	プロジェクトY甲虫班	11
22.1.24	近畿地学会	
22.1.27	シニア自然大学	
22.1.31	友の会総会	204
22.2.2	シニア自然大学	
22.2.3	大阪市教育センター研修	12
22.2.6	植物園案内	
22.2.7	友の会バックヤードツアー	55
22.2.11	友の会バックヤードツアー	62
22.2.13	教員向け行事イカタコ	10
22.2.14	イカタコ実習	15
22.2.20	大阪市教師養成講座	18
22.2.21	室内実習 コガネムシ	12
22.2.27	なにわホネホネ団	
22.2.28	教員向け行事 魚	16
22.3.6	植物園案内	
22.3.7	室内実習 球果	26
22.3.13	なにわホネホネ団	
22.3.20	ビオトープ	32
22.3.21	プロジェクトY魚	9
22.3.22	プロジェクトY甲虫班	5

### ■講堂 平成21年度 49件

年月日	団体名	人数
21.4.3~5	日本貝類学会	172
21.4.11	地球環境大学	200
21.4.12	シニア自然大学	250
21.4.25	シニア自然大学	
21.5.8	近畿大学附属小学校	117
21.5.9	地球科学講演会	190
21.5.10	日本鱗翅学会	88
21.5.13	門真市立上野口小学校	67
21.5.23	地球環境大学	200
21.5.30	地球環境大学	200
21.6.13	地球環境大学	200
21.6.27	地球環境大学	200
21.7.4	城南女子短期大学	95
21.7.11	地球環境大学	200
21.7.19~20	ナイトミュージアム	92
21.7.20	安全研修	
21.7.25	シニア自然大学	
21.7.26	ホネ展講演会	139
21.8.22~23	ホネホネサミット	
21.8.29	プロジェクトY中間発表	
21.9.12	地球環境大学	200

年月日	団体名	人数
21.9.19	自然史オープンセミナー	95
21.9.21~23	キノコ連続講座	370
21.9.26	地球環境大学	200
21.9.27	大阪湾一斉調査結果発表会	100
21.10.3~4	鱗翅学会	258
21.10.10	地球環境大学	200
21.10.17	自然史オープンセミナー	75
21.10.18	友の会秋祭り	113
21.10.21	智辯学園奈良カレッジ 中学部	89
21.10.24	地球環境大学	200
21.11.1	変形菌公開講演会	
21.11.6	長岡第九小学校	86
21.11.7	教員研修	50
21.11.14~15	自然史フェスティバル	
21.11.20	大阪市立本田小学校	89
21.11.23	高校生物教育研究会	
21.11.28	シニア自然大学	
21.12.8	堺市立赤坂台小学校	98
21.12.12~13	甲虫学会	59
21.12.27	友の会海の向こうの見聞録	98
22.1.10	はくぶつかんたんけん隊	198
22.1.20	グリーンコーディネーター総会	187
22.1.31	友の会総会	204
22.2.6	BYQ ネットワークの集い2010	100
22.2.7	友の会バックヤードツアー	
22.3.7	KONC 総会	
22.3.21	甲虫学会	40
22.3.27	大恐竜展セミナー	80

### ■イベントスペース 平成21年度 2件

年月日	展覧会名
21.12.5~22.1.17	特別陳列「ヘルマンヘッセ昆虫展」
22.1.23~ 1.31	深海生物の写真展

### ■ネイチャーホール 平成21年度 6件

年月日	展覧会名
21.4.18~ 5.31	特別展「世界のチョウと甲虫」展
21.7.4~ 8.30	特別展「ホネホネたんけん隊」展
21.9.19~11.3	特別展「きのこのヒミツ」展
21.11.14~15	自然史フェスティバル
22.2.20~ 2.21	万葉押し花倶楽部
22.3.20~ 5.30	特別展「大恐竜展」

Ⅶ 施設

自然史博物館本館

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造  
地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2427.48㎡	
			(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	
		(平均)	
ミュージアムサービセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	

館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベーター	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
	総計	7,066.01㎡

■ 階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

■ 工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費

	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(榊竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円

# 庶務

(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(㈱日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(㈱乃村工芸社)	2,500万円
・第3展示室ディスプレイ(㈱丹青社)	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ (㈱電電広告)	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円

## ■ 国庫補助金・起債

- ・国庫補助金 3,000万円(47.10.13付交付決定)
- ・起債 3億8,762万円(47.8.25付交付決定)

## 花と緑と自然の情報センター

■ 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 1,203.81㎡

■ 建築面積 1,203.81㎡

■ 延床面積 5,000.00㎡

■ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

地下1階、地上2階塔屋付建物

## ■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場(2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室(1)		36.80㎡	4.00m
前室(2)		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m

実習室	105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡
総合監視センター	32.78㎡	5.60m
空調機械室	116.93㎡	6.50m
機械室	722.99㎡	5.60m
E V機械室	49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室	15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡
地下1階廊下	28.74㎡	3.00m
1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

## ■ 階数別面積

地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■ 工期 平成10年12月～平成13年3月

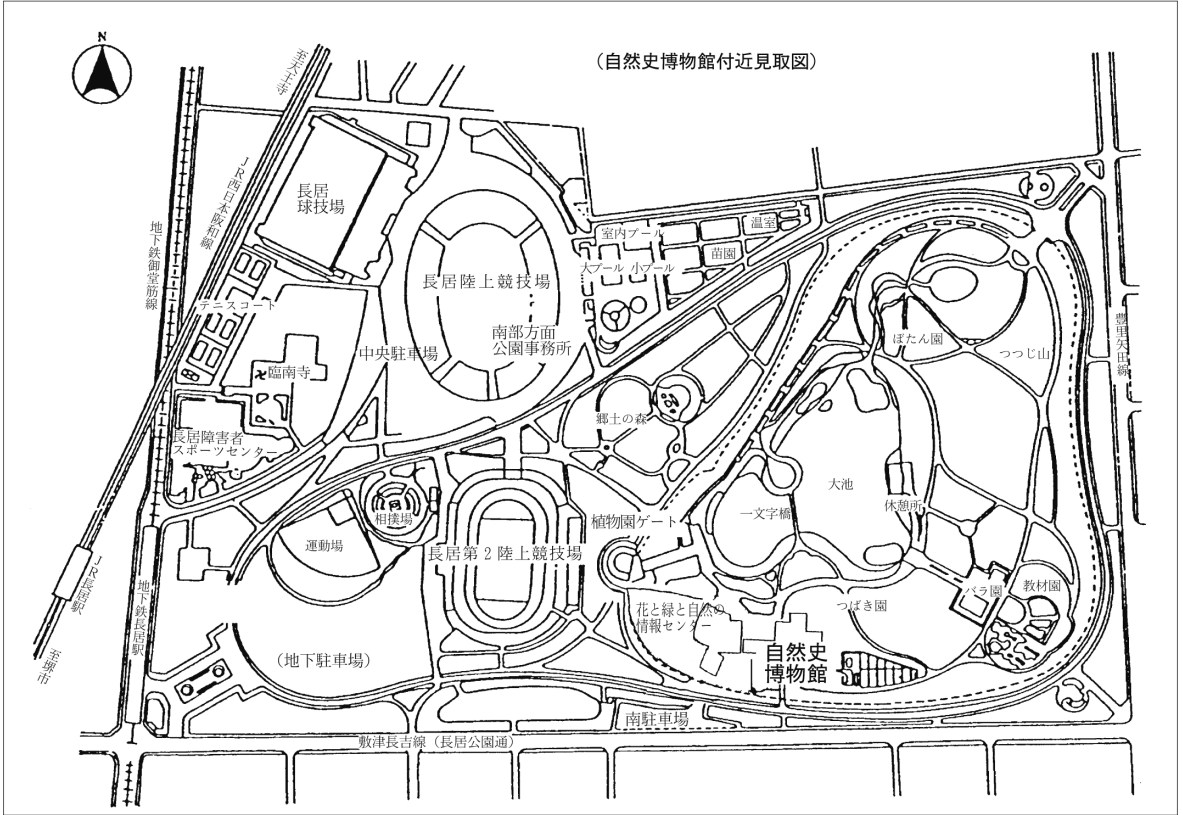
## ■ 総事業費

総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

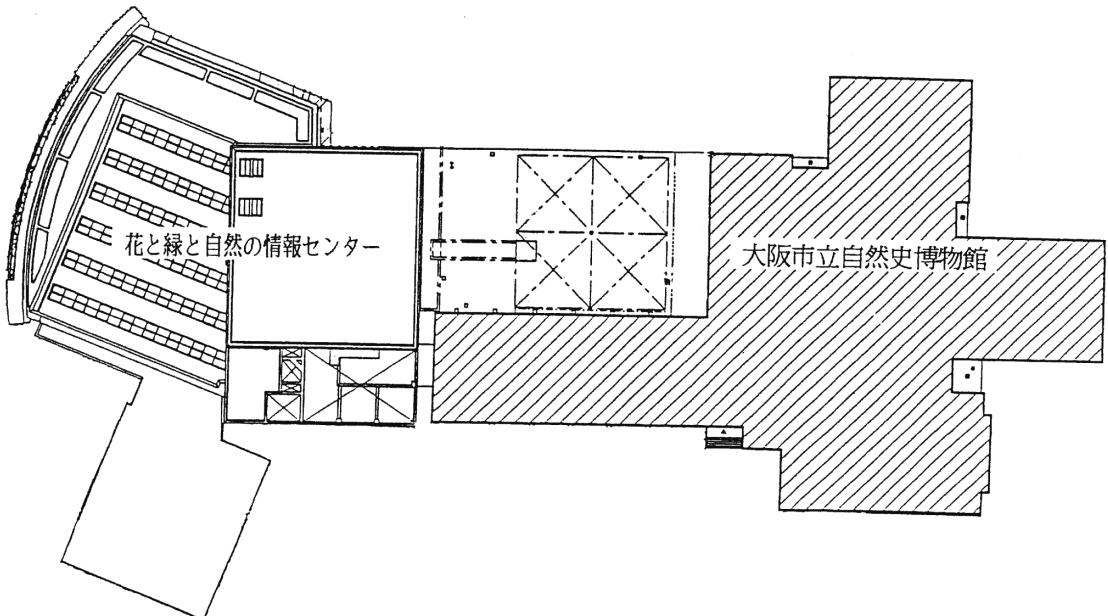
## ■ 起債等

- ・起債 34億7,477万3千円
- ・雑収(宝くじ協会) 3億6,001万7千円





大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

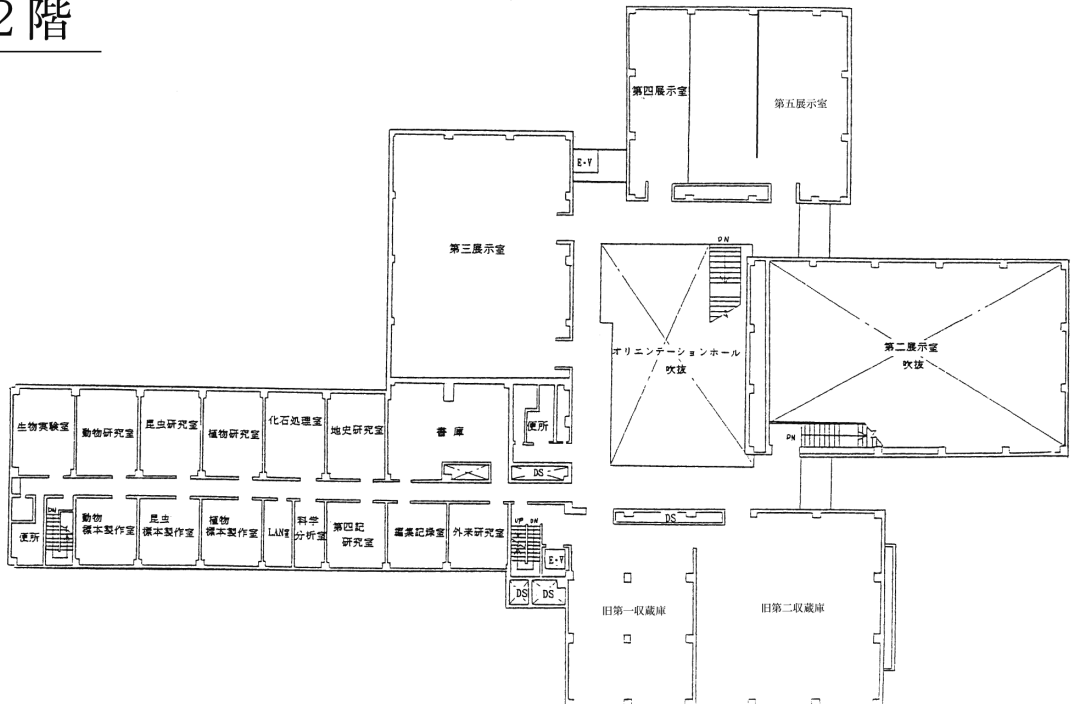


# 1階

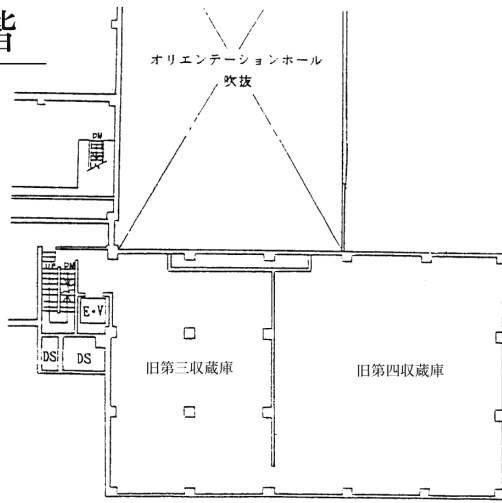
(自然史博物館本館)



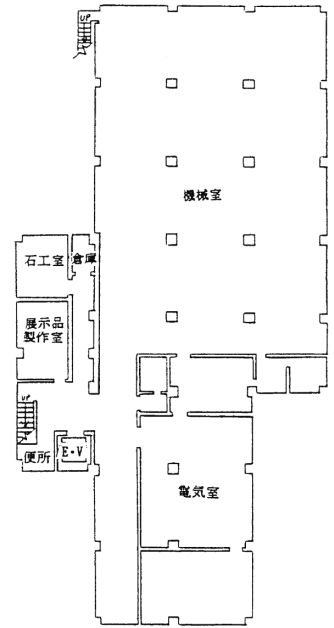
# 2階



3階

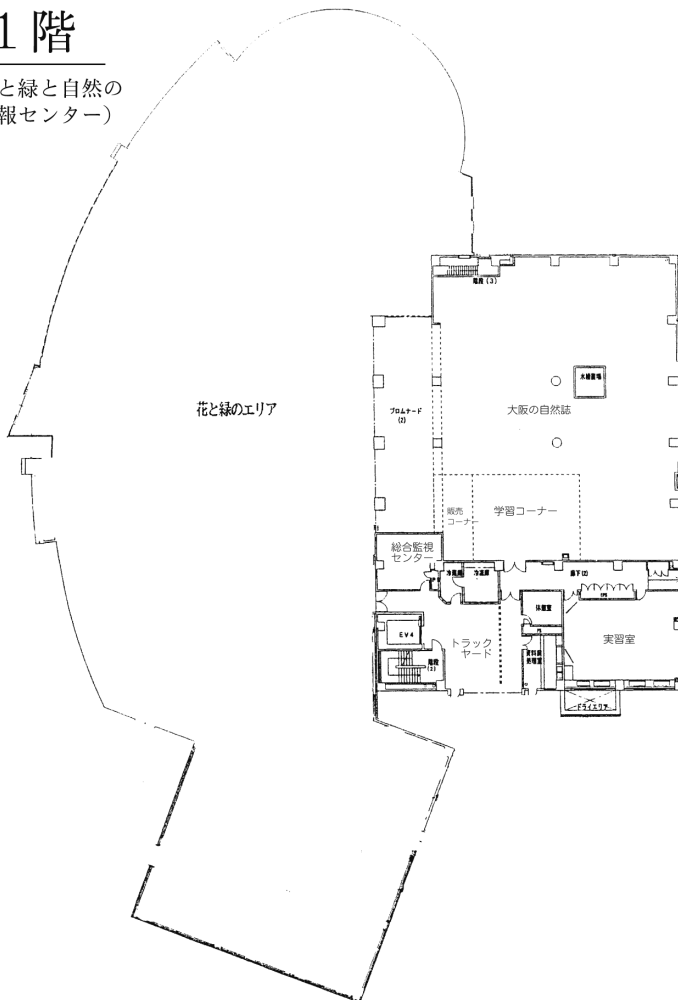


地下

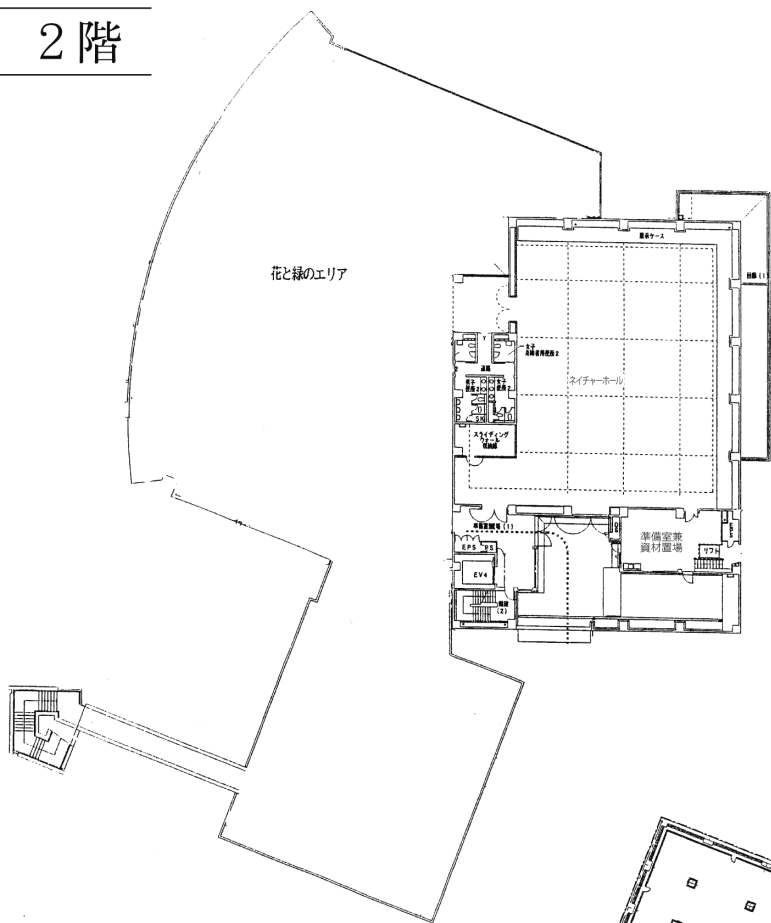


1階

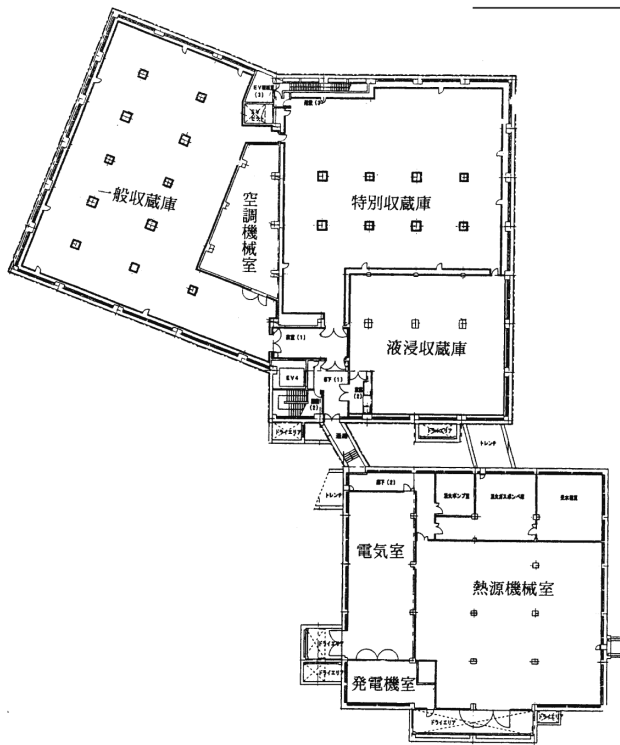
(花と緑と自然の  
情報センター)



2階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49.4.1 条例 39

最近改正 平17.9.22 条例109

(設置)

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

(目的)

**第2条** 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

**第3条** 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他必要な事業

(休館日)

**第4条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第16条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

**第5条** 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。

この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第5条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第5条第2項の規定により読み替えられた第4条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

**第6条** 博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

**第7条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物又は附属設備を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第6条の許可を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(入館の制限)

**第9条** 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(観覧料)

**第10条** 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、

## 庶 務

学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観 覧 料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200 円
その他の者	300 円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

**第11条** 施設の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会が定める額の使用料を納付しなければならない。

（1）特別展示室 32,000円

（2）講堂 17,000円

（附属設備の使用）

**第12条** 使用者は、教育委員会が定める使用料を納付して附属設備を使用することができる。

（使用料の納付の時期）

**第13条** 使用料は、前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、後納することができる。

（観覧料等の減免）

**第14条** 教育委員会は公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料又は使用料を減免することができる。

（観覧料等の還付）

**第15条** 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

（管理の代行）

**第16条** 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

（指定の申請）

**第17条** 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会の定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会が定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

（欠格条項）

**第18条** 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

（1）破産者で復権を得ないもの

（2）法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの

（3）その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 第1号に該当する者

イ 禁錮禁以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

（指定管理予定者の選定）

**第19条** 教育委員会は、第17条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

（1）住民の平等な利用が確保されること

（2）第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること

（3）博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること

（4）前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

（指定管理者の指定等の公告）

**第20条** 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

（業務の範囲）

**第21条** 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

（1）第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること

（2）建物及び附属設備の維持保全に関すること

（3）その他博物館の管理に関すること

（施行の細目）

**第22条** この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附則（抄）

この条例の施行期日は、市長が定める。

（施行期日 昭和49年4月2日市告示120）

○自然史博物館規則

制定 昭49.4.26(教)規則12  
最近改正 平18.3.31(教)規則 6

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

(開館時間)

**第1条** 自然史博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

(休館日)

**第2条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。  
(1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日  
(2) 12月28日から翌年1月4日まで

(入館の制限)

**第3条** 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。  
(1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者  
(2) 資料又は施設を損傷するおそれがある者  
(3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者  
(4) 管理上必要な指示に従わない者  
(5) その他教育委員会が管理上支障があると認める者

(観覧)

**第4条** 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

**第5条**

大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観 覧 料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200 円
その他の者	300 円

2 条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

(使用許可の申請)

**第6条** 条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂

(以下「施設」という。)の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所又は勤務先(団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)
  - (2) 使用の日時
  - (3) 使用の目的
  - (4) 使用する施設及び附属設備
  - (5) 特別の設備をしようとするときは、その内容
  - (6) 入場者の予定人員
  - (7) 入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額
  - (8) その他教育委員会が必要と認める事項
- 2 前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。
- 3 第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 特別展示室の使用許可 使用期日の6月前の日から30日まで
  - (2) 講堂の使用許可 使用期日の3月前の日から7日前まで
- (使用の制限)

**第7条** 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他教育委員会が不相当と認めるとき

2 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。

- (1) 偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき
- (2) 前項各号に定める事由が発生したとき
- (3) 条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基づく指示に従わないとき

(使用料)

**第8条** 条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

**第9条** 観覧料又は使用料(以下「観覧料等」という。)の減免及び還付は、教育長が行う。

2 観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

# 庶 務

- (1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。
- ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割
  - イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
  - ウ 100人以上の団体 観覧料の3割
- (2) 常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。
- (3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)

**第10条** 資料及び施設の利用については、教育長が定める。  
(損害賠償)

**第11条** 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

**第12条** 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

**第13条** 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

**第14条** 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によつて滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)

**第15条** この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則(昭和51年4月1日(教)規則第15号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和56年4月1日(教)規則第17号)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和61年4月1日(教)規則第10号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成元年4月1日(教)規則第9号)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この

規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成4年4月1日(教)規則第24号)

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則(平成5年4月1日(教)規則第3号)

この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成7年4月1日(教)規則第18号)

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附則(平成13年4月27日(教)規則第20号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成18年3月31日(教)規則第6号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

別表第2(第8条関係)

区 分	使 用 料			
	午 前	午 後	全 日	
講 堂	冷 房 設 備		16,000円	
	暖 房 設 備		16,000円	
講 堂	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式午前、午後各1回につき	1,800円	
	マ イ ク	1本午前、午後各1回につき	500円	
	ワイヤレスマイク	1本午前、午後各1回につき	1,100円	
	テープレコーダー	1台午前、午後各1回につき	900円	
	スライド映写機(スクリーン付)	1台午前、午後各1回につき	1,300円	
	16ミリ映写機(スクリーン付)	1台午前、午後各1回につき	4,200円	
	ビ デ オ 装 置	1式午前、午後各1回につき	2,200円	
	液晶プロジェクター(スクリーン付)	1台午前、午後各1回につき	1,900円	

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。



○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平18. 4. 1

(目的)

**第1条** この要綱は大阪市立自然史博物館規則第5条(平成18年大阪市教育委員会規則第6号。以下「規則」という。)の規定による観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(学校園等の教職員等の観覧料)

**第2条** 保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校(以下「学校園等」という。)又は養護学校の保育士又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して大阪市立自然史博物館(以下「博物館」という。)に入場しようとするときは、当該保育士又は教職員の観覧料を免除する。

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会(以下「教育委員会」という。)にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入館の目的
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料)

**第3条** 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の職員又は介護者が、入所者を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、介護者(ただし、入所者1名につき1名に限る。)及び入所者の観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法(昭和25年法律第144号)
- (2) 児童福祉法(昭和22年法律第164号)
- (3) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)
- (4) 知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)
- (5) 精神保健及び精神障害福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)
- (6) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)

2 前項の観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 社会福祉施設の名称及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及びその介護者1名の観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令(昭和35年政令103号)の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律(平成6年法律第117号)の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法(昭和38年法律第168号)の規定による戦傷病者手帳

(大阪市内在住者の観覧料の特例)

**第4条** 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

(視察等の観覧料)

**第5条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料の免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 入館の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入館者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

**第6条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則第3条に規定する特別展示室、講堂及び附属設備の使用料を減額又は免除することがある。

- (1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
- (2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
- (3) 博物館法施行規則(昭和30年文部省令第24号)第

# 庶 務

1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき

(4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

附 則

この改正要綱は、平成18年4月1日から施行する。

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください 様式 1

		自然史博物館		使用欄	
決	課		主		係
裁	長		査		員
障害者・中学生以下の学校団体等引率者用					
大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書					
平成 年 月 日					
大阪市教育委員会教育長 様					
申請者 校 園 名					
(団体名)					
校 園 長 名					
所 在 地					
電 話					
次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕					
目 的					
日 時		平成 年 月 日 ( ) 午前・午後 時 分から			
引率責任者氏名					
引率者(減免)人数 <span style="float: right;">名</span>					
生徒・園児・障害者・他人数( 学年) <span style="float: right;">名</span>					
合計人数 <span style="float: right;">名</span>					
申請理由 大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。					

様式 2

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 日

大阪市教育委員会教育長殿

申請者 団 体 名

代表者名

住 所

電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日	使用	午前 時 分～午前 時 分	午後 時 分～午後 時 分
使用目的				
日 時			参加人員 人	
種 別	数		量	
種 別	午前	午後	全日	
講堂				
冷房設備				
暖房設備				
拡声装置				
マイク				
ワイヤレスマイク				
スライド映写機				
16ミリ映写機				
ビデオ装置				

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

		自然史博物館		使用欄	
決	課		主		係
裁	長		査		員
午前・・・午前9時30分～正午					
午後・・・午後1時～午後4時30分					
全日・・・午前9時30分～午後4時30分					
(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます)					

---

---

○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館  
制定 平成 7年2月 1日  
改定 平成13年3月10日

(目 的)

- 1 この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入の規制)

- 2 受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）又は秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5以内で、当館が指定する。
- 3 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
- 4 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。
- 5 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

(受入れの願書)

- 6 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。  
なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

- 7 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

- 8 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

※各年度における実習日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51.12.  
改 正 昭54. 7.  
最近改正 昭62.12.

(目的)

1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

- (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
  - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
  - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
  - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
  - (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。
- (その他)

6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	管理課長	庶務係長	係 員
年			
	学芸課長	主任学芸員	学芸員
月			
日			

平成 年 月 日

写真・テレビ撮影等許可願

大阪市立自然史博物館長様

所在地  
会社・団体名  
代表者氏名印  
(担当者: )  
(電話番号: )

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。

日 時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

(テレビの場合)  
放映日時  
番組名  
タイトル  
(写真の場合)  
掲載紙名  
記事タイトル  
著 者 名  
発 行 者 名  
発行年月日

写真・テレビ撮影等許可書

様

大阪市立自然史博物館  
館 長

平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。

日 時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目 的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

(許可条件)

- (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。
- (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館  
制定 平成12年4月1日

第1条 (目 的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館(以下「当館」という。)の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条 (定 義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条 (期 間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条 (手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員(利用しようとする標本又は設備を管理する学芸員)から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票(様式1)に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書(様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付)を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。(様式3)。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。(外来研究員については前年度2月15日)。

第5条 (許 諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条 (経 費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条 (報 告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条 (成 果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条 (変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条 (資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

# 庶務

様式1

No. \_\_\_\_\_

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料  
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決 裁	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)  
住 所 \_\_\_\_\_  
電 話 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(所属機関の長または指導教官)  
所属機関 \_\_\_\_\_  
所 在 地 \_\_\_\_\_  
電 話 \_\_\_\_\_  
職 名 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研 究 者	所属部局 (教室)、職名 (学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

---

# ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2009

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

---

Issued: March 31, 2011.